

ZENOAQ CSR REPORT 2022

— 人と動物の、一步先ゆく未来を —

〔 CSR報告書に関するお問合せ先 〕

日本全薬工業株式会社 経営支援本部 総務部 総務チーム

〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

☎ 024-945-3531 ✉ zenoaq_pr@zenoaq.jp

日本全薬工業株式会社 
www.zenoaq.com



To Enhance the value of animals

いまも、そして未来も、

私たちが目指しているのは、

動物と人との共生です。

そのためにできることを、一步一步、少しずつ。

現代において、動物が社会に与える影響は年々大きくなっています。

人は、畜産動物から命の恵みをいただき、ペットから癒しなどの心の潤いをいただいています。

一方で、野生動物を起源とする様々な感染症は、人間や畜産動物の健康に度々影響を与えています。

私たちゼノアックは、動物用医薬品メーカーとして、動物が健康で元気な生活を送れるようお手伝いをする
ことで「畜産物の安定供給」や「動物との絆を深める」といった「持続可能な目標の達成」に大きな役割を
担っていると云えます。

「ビジョン2030」において私たちは日本に、世界に、独自性のある製品を提供し、動物のため、
ひいては社会のために貢献し続ける企業を目指してまいります。

目次

Table of contents

02 目次

03 トップメッセージ

05 お客様に対して

お客様満足度向上(CS)委員会/高品質な製品・サービスの提供

社員に対して

10 人事データ/エンゲージメント調査/社員満足度向上(ES)委員会/研修・教育制度/プロフェッショナル資格制度/ダイバーシティの推進/ワークライフバランスと各種制度/仕事と能力開発に関する調査/公正な評価/健康管理/福利厚生

コンプライアンス

16 コンプライアンス教育/薬事コンプライアンス委員会/GMP、三極対応GMP/GLP/品質保証と安全管理の体制/動物実験と動物倫理/公的研究費の取り扱いについて/防疫管理/広告・表示の適正化/内部通報窓口の運用/個人情報保護/交通事故削減運動/情報セキュリティ/ビジネスパートナーとの関係

環境への取り組み

21 省エネルギー委員会/エコ・環境推進チームの設置と活動/エコカーの導入促進/環境配慮型エネルギーへの転換/脱プラスチックの推進/電子化推進による環境対応/リサイクル活動/環境法制への対応

社会貢献

25 お客様に対して/動物と飼い主に対して/地域や社会に対して/児童、生徒、学生に対して/自然災害への被災地支援/グローバルな社会貢献

ガバナンス

32 コーポレートガバナンス/CSRの考え方/コンプライアンス行動規準/経営品質(MQ)向上活動/危機管理(RA)委員会/リスクマネジメント/事業継続計画(BCP)

会社概要

37 経営理念/基本原則/ゼノアックプロミス/ゼノアックブランド/会社概要/経営指標/組織図/ゼノアックの事業/ゼノアッククレジット/製品紹介

トップメッセージ

Top Message

ピンチをチャンスとし、 時代の要請に応えることのできる 企業を目指します

ありがとうございます。

2021 年は引き続き新型コロナウイルスの感染拡大によって私たちの生活に深刻な影響をもたらしました。感染者数の増加と共に人流・物流の停滞によって企業活動にも大きな制約を受けました。加えて2022 年の幕開けと共に勃発したロシアのウクライナ侵攻により世界に新たな緊張が生まれ、食糧やエネルギー供給、為替の変動などより多くの問題が表面化している現在、今後の見通しは困難で不確実性を増していると言えるでしょう。

ゼノアックは 2021 年度に新たな長期ビジョン「ビジョン 2030」を発表しました。現在まで続く当社の良き伝統を尊重しながら次世代の変化に対応していく事を目指しています。社会全体もまさに前例の無い変革のフェーズを迎えている今、私たちゼノアックは厳しい現実にはひるむ事なくピンチをチャン

スとし、時代の要請に応えることのできる企業に成長することを目指しています。

一例を挙げれば、しゃくなげ会やエクステンションセミナーを始めとする、当社が長く取り組んでいる学術講習会はウェブ配信の活用が急速に進み、参加者の方がより受講しやすくなりました。また直販体制のもとお客様に寄り添った営業活動を継続しながら、畜産経営の後継者育成に関する取り組みや、畜産、獣医療をより身近に感じていただけるためのウェブマガジン運営などを進めており、私たちが関わる業界全体の活性化を目指しています。

また働き方の点でもリモートワークや国内・国外とのウェブ会議実施が浸透しており、従来よりも効率的な業務活動が行われています。

一方動物用医薬品メーカーとして、お客様へ高品質な製品を安定的に供給する事は何よりも大切な使命です。そのためには研究開発や生産、物流業務にお

ける法令順守が不可欠であり、その正しい理解と実行に努めています。私たちが求められる企業活動のレベルを維持・発展させるためには、ゼノアックの経営理念を共有する優秀な人材を継続的に育成していくことが欠かせません。当社は研究開発から生産、営業、販売まで一貫した業務活動の特徴としていますが、社員の能力を最大限に引き出すための人材育成、教育体系は重要であり、その充実を図っています。社内・社外研修やプロジェクト活動への参加を通じて社員が継続的に成長できる仕組みを構築する事、また社員のモチベーション把握や適正な職場配置の検討を行う事で、社員がやりがいを持てる職場環境を作り上げ、なにより失敗を恐れずチャレンジすることができる社風の醸成を目指しています。

また私たちが従事する産業、業界の枠を超え、広く地域社会や環境に配慮した取り組みを進めています。省エネルギーや廃棄物の削減といった活動は企業として待ったなしで取り組まなければならないと考えます。また動物と人を繋ぐゼノアックだからこそ可能な社会貢献活動を引き続き推進して参ります。

先行きが不確実な時代だからこそ、私たちは「ゼノアックだから出来る仕事・ゼノアックにしかできない仕事」をしっかりと捉え、より皆様のお役に立てるよう社員一同一層の研鑽を続けてまいります。引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

代表取締役社長

福井 寿一

Fukui Toshikazu

01 お客様に対して

お客様満足の向上に向けた取り組み

ゼノアックでは、全国の直販拠点の営業員がお客様との接点を積み重ねています。この“ダイレクトコミュニケーション”の強みを活かして、全社員がお客様の声を捉える窓口(リスニングポスト)となり、お客様や市場のニーズを積極的にキャッチします。この情報を経営幹部・各部署・ビジネスパートナーと共有することで、製品やサービスの改良や更なるお客様満足の向上につながる取り組みに展開します。



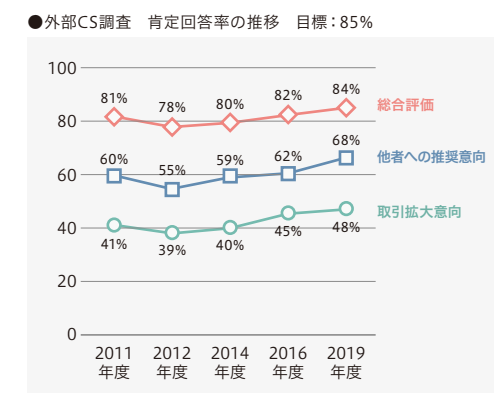
お客様満足度向上 (CS) 委員会

2002年にお客様満足度向上委員会（以下CS委員会）が設立され、CSに直結する取り組みから社内啓発まであらゆる取り組みを行っています。委員会メンバーは各部署における活動の中心となり、社員一人ひとりのCSマインドを向上させます。

CS 調査

2009年度から外部調査機関を活用したCS調査を行っています。総合的な満足度と相関の高い項目とお客様が重視する項目を明らかにするため、4つの視点（営業、製品、物流、情報提供）から評価項目を設定しています。回答結果は全社員に共有され、一つひとつのお客様の声は次の取り組みへと活かされています。

2019年度の調査では、総合評価の肯定回答率が84.3%とこれまでの最高を記録しました。これらは、ゼノアックの社員一人ひとりがお客様との関係構築を真摯に行ってきた結果であると考えています。



CS 委員会のその他の取り組み

社員のCSマインド向上を目的に、社内WEB「みんなのCS」を運営・配信しています。この情報は製品・サービスの改良や新製品開発にもつながっています。より多くのお客様の声をキャッチすることを目的に、毎年「お客様はがき」を発送していますが、その集計結果や一つひとつの声もここに掲載されています。「知りたいCS」では、社員が仕事やプライベートで感じたおもてなしやサービスの事例

を紹介しています。また、ゼノアックのお客様対応基準を徹底させるため、「クレーム対応の心得」という携帯カードを作り、全社員に配布しています。苦情品が発生した場合の対応は、「苦情品ワークフロー」という社内システムを使って、より迅速かつ正確な対応に繋がっています。

TOPICS

ペットオーナーと獣医師をギュッとつなぐWEBメディア「#HugQ(ハッシュハグ)」

ゼノアックでは、2021年4月に「ペットと過ごす時間を今より豊かなものにしたい。」その想いのもと、「#HugQ」を開設しました。#HugQは、犬オーナー向けの「ハグワン」と猫オーナー向けの「ハグニャン」があり、ペットオーナーと獣医師との間に立って滑らかなつなぎ役として機能するプラットフォームです。ゼノアックは、#HugQを通じてペットオーナーと獣医師がギュッとつながることで、ペットとともに過ごすかけがえのない豊かな時間と社会に貢献していきます。



▶ <https://www.hash-hugq.com/>

高品質な製品・サービスの提供

提案(課題解決)型営業

ゼノアックの営業活動は、単に製品を販売することではなく、お客様の抱えている悩みや課題を解決することを目的としています。例えば、

- AB事業部：環境調査、検査、成績分析からの改善提案
- LA事業部：疾病の根本原因から解決を図る「パッケージプラン」の提供
- CA事業部：疾病領域別のアクション

など、お客様の課題を起点として様々な施策を展開しています。



検査サービス

ゼノアックではお客様から要望のある検査を行うサービスを実施しています。検査サービスによって動物生体の異常、病原体の種類、当社製品の適合性などを明らかにすることで、お客様の抱える課題の原因追求や対策の立案に寄与します。サービスは営業、学術、研究所の三者が連携し、それぞれの専門性を活かすことでお客様満足に貢献しています。また新たな検査を確立したり、これまでの検査結果をデータベース化するなど、新たな価値を創造するための活動も進めています。

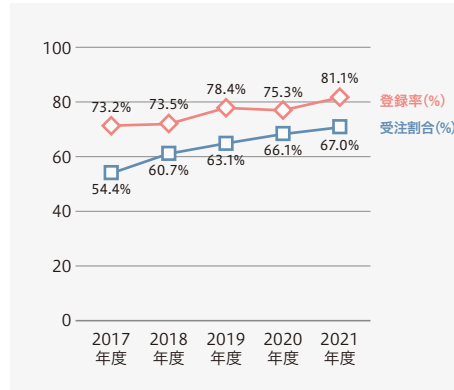
●主な検査サービス項目

CA事業部	犬	パバシア(原虫)検査 Derf2特異的IgE抗体検査	
	猫	PCR検査	
AB事業部	鶏	Mg、MS(マイコプラズマ)リアルタイムPCR検査	
LA事業部	共通	生化学検査 下痢症起因菌検査	肺炎起因菌検査 ビタミン測定
	牛	ミネラル測定	
	豚	PCV2(ウイルス)検査 ※1検体に対しPCR・ELISAの同時検査 抗体検査	

ベッツダイレクト®

「ベッツダイレクト®」は動物病院様専用のEコマースシステムです。業界に先駆け2006年から開始したこのサービスは、お客様からご好評をいただいています。受付時間内に受注した製品は最寄りの物流センターから発送され、翌日に受け取ることができます。新製品のご案内やキャンペーン情報などをいち早く提供するほかセミナー配信もし、ゼノアックと動物病院様を結ぶ重要なプラットフォームとなっています。

●ベッツダイレクト登録率と受注割合の推移



※受注割合は、このシステムで受注可能なご注文のみの割合を集計しています。

オンラインセミナーの開催

新型コロナウイルス感染症の影響で集合型セミナーの開催が難しくなりましたが、お客様への情報発信を継続して行くため、2020年度からは従来のセミナーをオンラインで開催しています。AB事業部の養鶏セミナーは、現場や業界の最新状況に合ったタイムリーなテーマで、都度最適な講師（コンサルティング獣医師など）を選任してお届けしてい

ます。CA事業部はファルミナペットライフセミナーや膿皮症セミナー、ブレンダZ症例報告、猫の変形性関節症などのセミナーや報告を行っています。LA事業部でも生産者と獣医師へ向けたオンラインセミナーを行っています。

SNSの活用

公式Facebookページを2018年に開設し、ホームページでは伝えきれない当社の日常や社員の取り組みなどについても紹介しています。公式YouTubeページは2019年に開設し、採用ムービーや会社案内ムービーなどのほか、現在は製品紹介や学術セミナーなども動画で提供しています。ゼノアック製品の販売を行っている中国においては、現地の北京代表処のメンバーが本社総務チームと共に、現地のSNSであるWeChatに記事を投稿しています。



◀公式Facebook
https://www.facebook.com/zenoaq/



◀公式YouTube
https://www.youtube.com/channel/UCi_EAGqYp-PMRcRU1bNKXZbw



◀公式WeChat
https://mp.weixin.qq.com/s/24-fgmJCJZNj-CAdnVydng



犬アトピー性皮膚炎に関する情報サイト

本サイトでは、犬アトピー性皮膚炎の原因、症状、治療法はもちろん、自宅のできる環境対策など、ペットオーナー様にわかりやすいよう解説しています。また、犬アトピー性皮膚炎の原因となっているアレルゲンを体に入れることで、症状を和らげる治療法である「減感作療法」についてより詳しく解説しています。



▶https://www.genkansa.jp



TOPICS

ゼノアックのお客さま専用オンラインセミナーサービス「FARMinar (ファーマナー)」

ゼノアックは、2021年10月にお客様専用Webセミナー配信サイト「FARMinar」を開設しました。FARMinarは、いつでも手軽にセミナーを視聴・参加できるオンライン上の学びの場です。生産現場で役立つ情報や、経営に役立つ情報をはじめ、農場運営に欠かせない情報を発信しています。生産者だけでなく、獣医師の方々に向けた情報も随時発信しています。



▶https://farminar.jp/



国際学会・展示会への積極参加

ゼノアックは現在、動物の価値を高めることのできるグローバル企業を目指し、その独自技術を用いた製品がもたらす価値を、日本のみならず世界に広く提案する取り組みを行っています。活動の一環としてアジアやヨーロッパで開催される学会や展示会などにも積極的に協賛、出展しています。また2018年にはアジア初開催となる「世界牛病学会2018札幌」におけるメジャースポンサー、2019年には日本で初開催の「アニマルヘルス・イノベーション・アジア（AHIA）」におけるメインスポンサーとして、ゼノアックは世界の関係者をお迎えしました。海外企業とのネットワークが強く確かなものとなり、世界の動物薬業界におけるゼノアックの存在感が高まりを見せ始めています。

中国上海で開催されるアジアペットフェアには毎年ブース展示を実施しています。また中国で乳牛関連のセミナー、台湾ではフルモサ獣医師大会でのセミナーを、いずれもWEB形式で開催しています。



◀2018年世界牛病学会ブース



◀2019年アニマルヘルス・イノベーション・アジア（AHIA）ブース

▶2020年開催の上海新国際博覧センターでのイベント



電話での対応力の向上「もしもし検定」

社内ではコールセンター、セールスサポートチーム、総務チームなどで「もしもし検定※」を受検しています。社員には1級（上級）の有資格者もあり、お客様に喜んでいただけるような対応を目指し、レベルアップに取り組んでいます。

※もしもし検定（電話応対技能検定）：「お客様に喜ばれるビジネス電話応対」の実現、電話応対のエキスパートとして即戦力になり得る社内の指導者の育成を目的とした検定制度で、（公財）日本電信電話ユーザ協会が実施しています。



TOPICS

須賀川物流センターの新設

ゼノアックは、2021年10月11日、福島県須賀川市内に新たな物流センターを稼働させました。2300坪の広いスペースに、これまで社外に分散していた在庫を集約することで、作業の効率化に加え、横持ち輸送の削減によるCO²の排出削減も図りました。お客様への製品の安定供給をより高い次元で実現するため、これからも戦略的なロジスティクスを進めていきます。



02 社員に対して

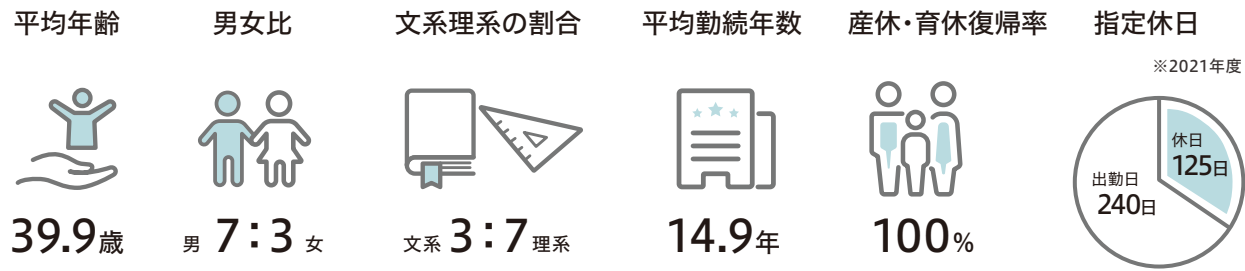
社員の声に耳を傾け、 時代に応じた制度や取り組みを導入

ゼノアックは、人材が最も重要な経営資源であり、また社員満足はお客様満足と密接な関係があるとも認識しています。

社員の働き甲斐や誇りを尊重し、組織と個人が共に成長し、幸せや豊かさを享受できるよう、社員の声に耳を傾け、時代に応じた制度や取り組みを導入していきます。



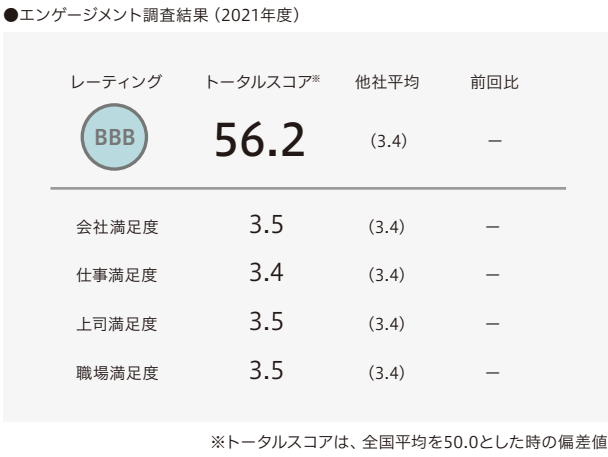
人事データ 対象：正社員(2021 年度)



エンゲージメント調査

社員が「働きがい」を実感した会社となるために、会社全体と組織ごとの現状把握と課題抽出を行い、会社と社員の双方が発展し成長できる施策立案に活用するため、2021年度からエンゲージメント調査を実施しています。この指標は、企業と従業員の信頼関係を「偏差値」で表しており、当社は全国平均より6.2ポイント高く、AAAからDDまでのレーティングではBBBでした。

この調査以前は、2007年から定期的に社内満足度（ES）調査を行ない、全社レベルでの社員満足・不満足や社員の意見を把握し、改善活動を行っていました。



社員満足度向上（ES）委員会

2007年に社員満足度向上委員会（以下ES委員会）が設立され、この年から始まったES調査を中心に、日常のES向上につながる取り組みを行っています。社内グループウェアには専用ページ「イエス！ES」を開設・運営し、委員会議事録の掲載をはじめ、全国拠点スタッフの紹介や各種写真コンテストの実施など社員相互のつながりを深める取り組みを行っています。

研修・教育制度

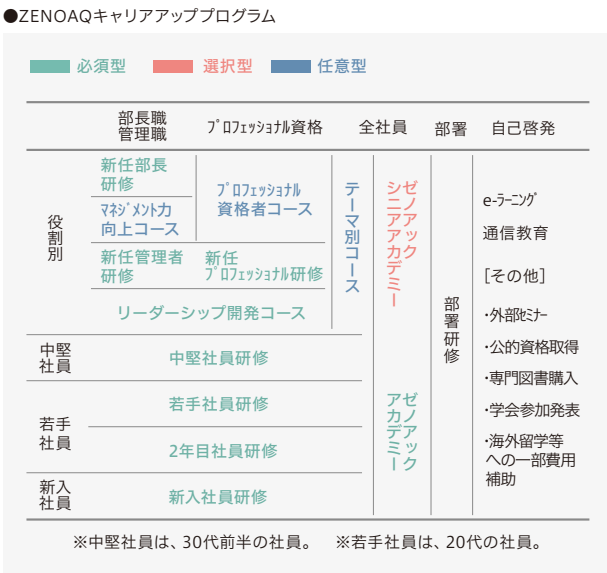
社員個々人の能力は、様々な物事に関心を持ち“気づき”を得ること、“自ら考え行動する”ことで向上すると考えています。私たちは社員のOJT、OFF-JT、自己啓発などで学ぶ機会や気づきの機会が増えること、何事にも目標と責任を持って取り組む習慣が身につくこと、チャレンジできる風土・環境を醸成することが、学習意欲を高める動機づけにつながると考えています。個々人が、高いレベルの専門知識やスキル、人間的な魅力を備えた「プロフェッショナル」となることを、能力向上の目標としています。



教育体制

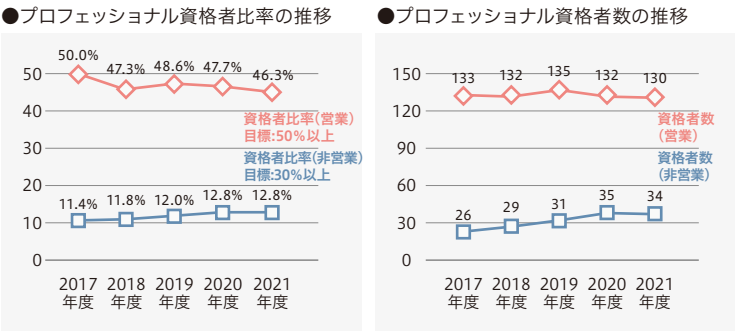
ゼノアックは、2012年度から本格的に運用している教育体系を社員のニーズやアイデア、会社の方向性に合ったものに改編し、2016年度から「ゼノアック・キャリアアッププログラム」としてスタートさせました。

全社共通・必須型の階層別研修は、新入社員、2年目社員、若手社員、中堅社員向けにあり、次期リーダーのためのリーダーシップ開発コース、新任管理者研修、新任プロフェッショナル研修、新任部長研修と続きます。任意型の階層別研修もあります。部署別にはそれぞれの専門分野に特化した講習や勉強会が年間で複数回開催されます。外部教育機関と連携したe-ラーニングや通信教育も、自己啓発として自由に受講することが出来ます。このほか、外部セミナーへの参加や公的資格の取得、学会参加・発表、専門図書の購入など社員の能力向上のためのサポートを行っています。



プロフェッショナル資格制度

より高度でユニークなスキル、技術、知識を持った人材に、早期にその専門性を活かせる活躍の場を提供するとともに、それに相応しい処遇を行うことを目的としたのがプロフェッショナル資格制度です。必要条件を備えた社員の自薦・他薦で応募でき、ペーパーテストと上司による審査書、レポート提出などを経て経営幹部が認定します。営業部門から制度を開始し、その後非営業部門にも展開していますが、当面の取得率目標は営業部門では50%、非営業部門では30%です。



ダイバーシティの推進

性別や年齢、国籍、人種、宗教、そのほかさまざまな価値観の違いは、一つひとつが個性と言えます。お互いに認め合い、その多様な視点による相乗効果から生み出される創造性を、ゼノアックは企業力の源泉としています。

ポジティブアクション

ポジティブ・アクションという女性活躍のための取組を行っています。先進企業の取組を紹介し啓発する講演会を開催したり、社内報に連載記事を掲載したりしています。近年の新卒採用では男女比はほぼ同じ、女性の管理職登用

も積極的に行っています。2021年度の女性管理職比率は18.3%で、日本国内平均（8.9%※）の倍となっています。

※帝国データバンク

障がい者の雇用について

ゼノアックでは障がいも個性のひとつと考え、一人ひとりの個性を尊重し合い、自ら考え行動する仲間を求めています。地域の特別支援学校への訪問やハローワークの主催する障がい者合同面接会などに参加し、採用活動を行っています。

ます。障がいの種類や程度に応じて、障がいのある社員が様々な仕事を行っています。対話をさらに重ね、その要望を汲み取り、その社員にあった働き方が実現できるよう努めています。

多様な雇用形態

ゼノアックでは業務内容や期待役割に応じて、正社員、パート社員、嘱託社員、派遣社員など様々な働き方を提供しています。パート社員や派遣社員からの正社員登用制度もあります。60歳の定年を迎えた社員は、再雇用制度により65歳まで希望に応じて働き、長年培ったスキルやノウハウを社内に伝承する大切な役割を担って活躍しています。国籍、人種、宗教、障がいの有無にかかわらず、魅力的な人材の確保をすすめています。



TOPICS

2021 年度 郡山市男女共同参画推進事業者表彰

ゼノアックは、「令和3年郡山市男女共同参画推進事業者表彰」を受賞しました。この賞は、郡山市により平成15年4月に施行された「郡山市男女共同参画推進条例」に基づき、女性の積極的登用や女性の能力活用、仕事と家庭の両立支援など、男女がともに働きやすい環境づくりに積極的に取り組んでいる事業者に贈られます。



ワークライフバランスと各種制度

社員の価値観やライフスタイルの多様化に対応し、子育てや介護、家庭・地域活動・自己啓発等に個人の時間を持ち、健康で豊かな生活ができるようさまざまな制度があります。フレックスタイム制度、永年勤続者に対するリフレッシュ休暇制度、育児・介護における雇用形態一時変更制度、社員に育児・介護の必要が発生した際に取得できる看護休暇制度と介護休暇制度、結婚・出産等退職者再雇用制度など。

ど、社員の声や社会情勢の変化を受け、新しい制度の創設や現行制度の改訂を毎年行っています。2020年7月には、テレワークを推奨する在宅勤務規程が加わりました。また、部署や個人によってバラつきのあった勤務時間を改善するため、これまでのルールの見直しと勤怠システムの更新を行い、残業時間を厳格に管理しています。有給休暇は消化率目標を設定し、進捗管理を行っています。

仕事と能力開発に関する調査

「仕事と能力開発に関する調査」は、それまでの「自己申告制度」に代わり、2020年度より開始されました。正社員が対象で、社員一人ひとりの「仕事に対する意欲・考え」や「健康状態」を社員自らが回答し、調査結果を組織体制、および能力開発・職場環境に関する各施策の向上に活用するものです。設問には、自組織を通さず人事部に直接相談できるものも含まれています。

公正な評価

ゼノアックの人事評価制度は、目標に対する成果評価とそれにつながる行動評価の2つから成り立っており、四半期毎に直属上司が部下と面談を行うことが義務化されています。新任管理者に対する評価者研修も行われ、評価制度の公正性・公平性を支えています。正社員の評価方法に準じてパート社員や嘱託社員に対する評価制度もあり、非正規社員のモチベーション向上にも繋げています。



健康管理

年に1回の健康診断受診は、35歳未満は法定健康診断ですが、ゼノアックの場合35歳以上は生活習慣病予防検診が、特定の年齢（42、45、48、50歳以上）では人間ドックが選択でき、その費用はいずれも会社が全額負担します。有機溶剤や特定化学物質を取り扱う作業者には特殊健康診断も加えられています。全社員の健康データは一括管理され、今後の健康管理施策に役立てられます。また年に1回のストレスチェックも実施され、希望者は専門医によるコンサルティングも受けられます。健康増進のために、これまでウォーキングやフィットネス、食事管理などをスマートフォンアプリを使って計測するキャンペーンも実施し、目標達成者全員を表彰しています。



▲ 健康診断

福利厚生

磐梯会

社員相互の親睦を図り、会社の発展を目的とした磐梯会は、1956年5月の発足から積極的に活動を続けています。スポーツ・文化のための各種部活動とサポート、社内親睦行事の主催やサポート、慶弔や傷病等へのお見舞いなど、会社と社員、その家族との心をつなぐ大切な役割を担っています。



▶ 華道部

ランドセルの寄贈

小学校に入学する社員の児童全員に毎年ランドセルを贈っています。創業者が長男にランドセルを買い与えることができなかった辛い経験から、社員には同じ思いをさせたくないと考え、1957（昭和32）年から現在まで継続しています。



福利厚生サービス

社員は社外の福利厚生サービスで旅行やレジャー、ショッピング、スポーツ、通信教育、生活サービス等を利用することができます。対象は社員本人のみならず、配偶者とそれぞれの二親等の親族まで適用できます。

▶社内では福利厚生に関する雑誌も配られています。



社内報

組織と社員そして社員同士を結ぶ社内報を1965年から発行し、2001年からは社員の仕事や生活をより良いものにするため、動物と社会そして未来をみつめる情報誌「OCULUS オクルス」と改名しリニューアルしました。2015年度からはデジタル版も発行され、現在は創刊号からのアーカイブもインターネットで閲覧できます。2020年4月には、200号の発行を迎えました。

※OCULUS（オクルス）とはラテン語で「目」。ロゴマークが動物の目をモチーフとしたことから命名しました。



TOPICS

産業安全・労働衛生優良管理者・優良従業員の表彰

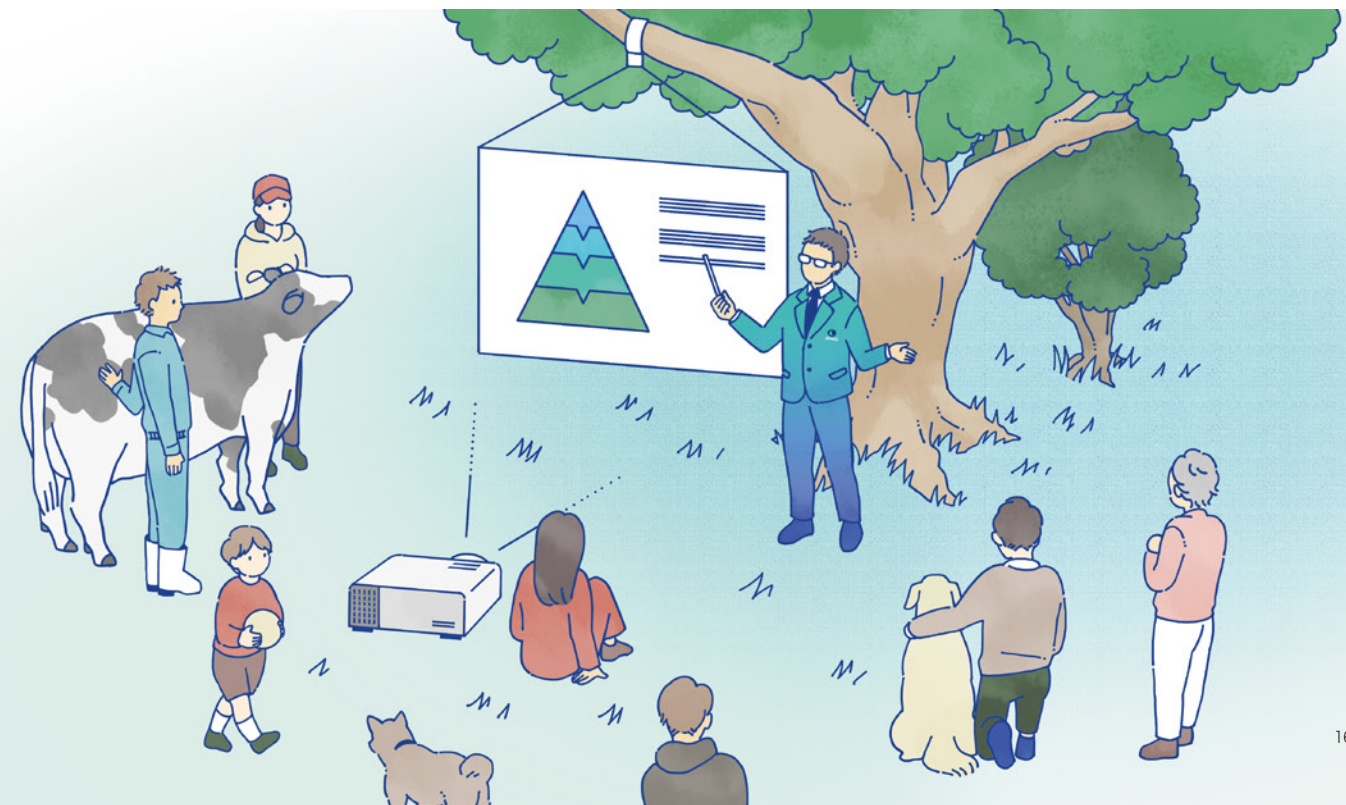
2021年11月11日、郡山労働基準協会より、当社から優良労働衛生管理者、優良労働衛生管理者、優良労働衛生従業員、優良産業安全管理者の4名が表彰されました。職場の安全衛生に関しては、前年度も（一社）郡山労働基準協会より労働衛生優良事業場の推薦を受け、郡山地区産業安全衛生大会で会長賞を受賞するなど、その取り組みが高く評価されています。

03 コンプライアンス

高い倫理観で 社会の信頼と期待に応える

私たちは企業人であると同時に社会の一員でもあります。ゼノアックの「基本原則」には「治生産業順正法」を掲げ、モラルを大切に、法令や社会のルールを守ることを重要な指針としています。

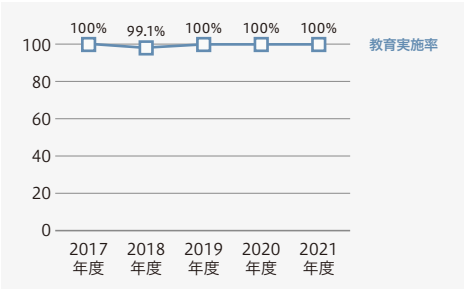
薬事関連法をはじめとした法令遵守はもちろん、社会からの信頼と共感をいただける企業であり続けるために、高度な倫理観で自らを律し、コンプライアンスの徹底を図ります。



コンプライアンス教育

社会からの要求は時代に応じて変化しています。法令等の遵守に留まらず、社員のコンプライアンス意識向上を目的として、CSR委員会が部署単位の教育を推進しています。各部署では最低年2回のコンプライアンス教育を実施することとしており、各部署に配置されたコンプライアンス推進委員が教育計画の立案と教育実施後の報告を行なっています。2018年度を除き、2014年度以降の教育実施率は100%を達成しており、社員個々のコンプライアンス意識や、組織の考え方や取り組みに対する社員の評価も高いレベルにあります。

●社内コンプライアンス教育実施の推移 目標100%



薬事コンプライアンス委員会

私たち動物用医薬品業界は、高いレベルの薬事コンプライアンスが求められます。ゼノアックでは2015年度、社長を委員長とする「薬事コンプライアンス委員会」を新設し、副社長、専務取締役を副委員長、営業・研究開発・製造・流通各部門の本部長を委員に置き、薬事コンプライアンスに基づく経営支援、組織体制の確立、ルール等の整備とその改訂、教育・研修、内部監査、自己点検を継続して実施し、薬事コンプライアンス遵守体制を維持して参りました。

さらに、2021年8月1日付の医薬品医療機器等法改正により、医薬品等の製造販売、製造、販売等を行う者による法令遵守体制の整備等が義務付けられたことを受け、社長、副社長、専務取締役を薬事に関する業務に責任を有する役員として、その責任を明確化し、社内の薬事コンプライアンス状況に関する報告体制を更に強化する等して、薬事コンプライアンス委員会との連携体制を構築し、法令遵守の徹底をはかっています。

●薬事コンプライアンス委員会の組織と役割

委員長：代表取締役社長（責任役員） 副委員長：取締役副社長、専務取締役（責任役員） 委員：関係する部署長及び委員長に指名された者
事務局：信頼性保証部長及び信頼性保証部長に指名された者
薬事コンプライアンスに基づく経営支援 組織体制の確立 ルール等の整備と継続的な改訂推進 薬事コンプライアンスチェック(内部監査) 教育・研修の推進 全社自己点検

GMP、三極対応 GMP

高品質な医薬品を恒常的に生産するため、医薬品の製造はGMP省令※に準拠することが求められます。ゼノアックは動物用医薬品のGMP省令に先駆け、GMPソフト及びハードの整備を進め、いち早くGMP体制を確立してきました。また、2014年には三極（日、米、欧）対応GMPに準拠した製造施設を建設し、海外も視野に入れたGMP体制の確立に取り組んでいます。



▲2014年に完成した、三極（日米欧）GMP基準に準拠した第三工場（バイオプラント）



▲2017年に完成した、三極GMPと人体薬のGMP対応を目指す品質管理棟

※Good Manufacturing Practice：医薬品の製造及び品質管理に関する基準

GLP

動物用医薬品の安全性を評価する試験や検査が正確かつ適切に行われていることを保証するため、ゼノアックでは1989年よりGLP省令※に従って試験を実施しています。試験施設が備えるべき設備、機器ならびに組織や試験の手順等についてSOP（標準操作手順書）を作成し、これに従って試験を実施することでその信頼性を確保しています。また、信頼性保証部門が試験の信頼性に問題がないかチェッ

クを行い、必要な指摘や勧告を行っています。GLP教育は年1回実施し、研究開発に携わる社員全員のGLPへの理解を深めています。

※Good Laboratory Practice：医薬品の非臨床試験の安全性に関する信頼性確保のための基準

品質保証と安全管理の体制

品質保証（GQP）

信頼性保証部内にGQP※部門として保証第1チームを設置し、GQP省令に基づき、製造販売している医薬品、医療機器等の品質を確保するための、市場への出荷の管理、製造業者に対する管理監督、品質等に関する情報及び品質不良等の処理、回収処理のほか製品の品質管理に必要な業務を行っています。

安全管理（GVP）

直販体制を活かしたGVP※体制を整備し、GVP省令に基づき、医薬品、医療機器等の「安全管理情報」の収集、検討及びその結果に基づく必要な措置に関する業務（安全確保業務）を行っています。「安全管理情報」とは、医薬品、医薬部外品等の品質、有効性及び安全性に関する事項、その他医薬品等の適正な使用のために必要な情報をいいます。獣医師及びお客様から報告いただく副作用情報に関しては、発生した副作用の分析や農林水産省への報告対応等を行い、より安全な医薬品の製造販売に繋げています。

※GVP：Good Vigilance Practice（医薬品等の製造販売後の安全管理の基準）

動物実験と動物倫理

動物実験に関する規程

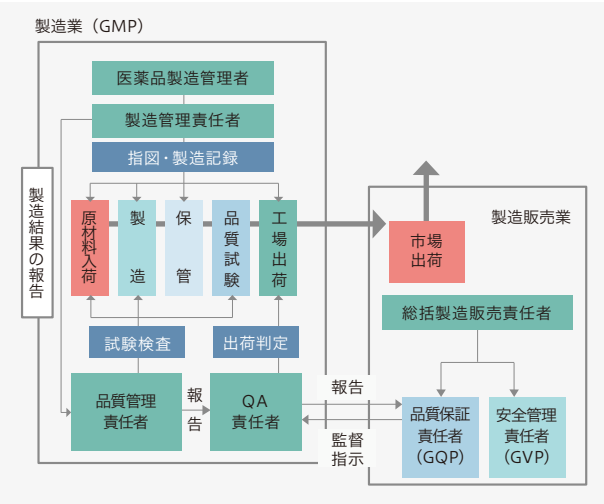
ゼノアックの動物実験委員会は、2005年度に「日本全薬工業動物実験憲章」と「動物実験指針」を策定し、2019年度には憲章と指針を「動物実験に関する規程」として統合しました。この規程には、動物の権利（animal rights）を認め人間はそれを守る義務があるという動物福祉の基本的考えに基づき、関係法令やガイドラインに則り、4R※を全社共通の基本理念として適正な動物実験の実施を促すと記しています。また、動物福祉のほか、科学的に正しいデータを得ること、実験者の安全を守るための具体的な方法が記されています。

動物倫理・福祉教育

研究開発本部では定期的に社員に向けて、内部または外部講師を招いて、動物実験に関する法律の改正や世界的なトレンドなど、動物倫理・福祉に関する教育を実施しています。

その他として、医薬品や医薬部外品を製造販売するために必要な製造販売承認の維持管理や行政対応などを行っています。

※GQP：Good Quality Practice（医薬品等の品質管理の基準）



動物実験の実施に際しては、この規程に従って試験計画書と動物実験審査申請書を作成し、動物実験委員会の承認の下に実験が行われる体制になっています。

※4R：1957年、W.M.S.Russelによって提唱された動物実験の3Rの原則、Replacement（代替法の活用）、Reduction（使用数の削減）、Refinement（苦痛の削減）に、1995年R.Banksによって追加されたResponsibility（責任）の4つの原則。



▲年2回お彼岸頃に行われる動物慰霊祭



▲外部講師による社員教育

公的研究費の取り扱いについて

ゼノアックは、文部科学大臣決定（平成 26 年 2 月 18 日改正）「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に則って「公的研究費管理規程」を制定し、これに従って公的研究に取り組みます。公的研究費の運営・管理は社長を最高管理責任者とし、公的資金を導入

防疫管理

防疫体制の確立

口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚熱（CSF）などの家畜の伝染病は、地域の畜産業に重大な被害をもたらし、またBSEなどの人獣共通感染症は人の健康も脅かします。ゼノアックが病原体の発生やまん延に関わることをないよう、日頃から製品や原材料の輸入と輸出に関して十分な防疫管理を行うとともに、人の移動についても、販売拠点から本社まで細心の注意を払っています。2017年には海外からの家畜伝染病蔓延リスクを低減することを目的として、「海外からの来客に関する規程」を新設し、海外のお客様が当社施

車輛消毒装置

海外からの製品も直接運ばれる本社（郡山物流センター）では、物流業者様と社員が通行する北門・正門に車両消毒装置を設置し、物流面での病原微生物の侵入・媒介を防ぐ対策を行ってきました。中国の天津全葉では大型の消毒装置を早くから設置し運用しています。またすべての拠点の出入り口に消毒マットを設置し、建物内外に病原体が拡散することを防いでいます。

広告・表示の適正化

動物用医薬品・医療機器等、飼料・飼料添加物、ペットフード等のパッケージや添付文書、広告に関しては、それぞれに関連し規制する法令があります。それらを遵守し正しい表現を行うための社内ルールを運用していましたが、2010 年度にこれを再整備し体系化して「ZENOAQ-CLC ※」としました。実務関係部署の確認と複数の薬事担当部署の確認、承認をワークフローシステムによって運営することで、広告・表示等のコンプライアンスを担保するとともに、手続きの効率化も図っています。

※ZENOAQ-CLC： ZENOAQ Customer Literature Clearance の略。ゼノアックがお客様に配布する印刷物等の表現チェックに関する手続き。

する本部長と部長がそれぞれ統括管理責任者、公的研究費管理責任者という体制です。最高管理責任者は、率先して不正防止を推進し、自ら不正防止計画の進捗管理に努めます。

設や国内の農場に入場する際のルールを規定し運用しています。伝染病の発生時には危機管理委員会や緊急対策本部からの通達により、蔓延防止の対策措置や支援物資（消毒薬等）の供給などが行われ、販売拠点では現地の家畜保健所と連携をとって対応にあたっています。2020年は、鳥インフルエンザが全国的に猛威を振るい、お客様へ多大な影響がありました。従来以上の対策が必要とされ、手厚い支援を行いました。



内部通報窓口の運用

ゼノアックコンプライアンス行動規準や法令等に違反する行為などについて、社員が直接通報や相談ができる仕組みがあります。「ゼノアック内部通報規程（2007年制定、2020年改定）」に基づき「ゼノアック コンプライアンスヘルプライン」の名称で社内（CSR委員長）と社外（顧問弁護士）に窓口を設置し運用しています。また、女性社員の相談や通報に適切に対応するため、2010年に女性担当者を配置した女性専用の窓口（社外）も開設しています。この制度はパート社員、派遣社員を含めゼノアックで働く全ての人が利用することができ、通報や相談者の個人情報の保護を徹底するとともに、通報者が不利益な扱いを受けないことを保証しています。

個人情報保護

2005年に策定しWEBサイトに公開した「個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）」は、JISQ15001：2006（個人情報保護マネジメントシステム）にも準拠するよう2010年に改定を行い、2022年4月からの法改正に伴う改定も行っています。このポリシーに基づく「個人情報

交通事故削減運動

ゼノアックでは、交通安全を重要方針とし全社を挙げて交通事故削減に取り組んでいます。2021年度は有責事故目標の達成率が100%となりました。全拠点で「安全運転管理者」を任命し交通安全についての指導・管理を行っています。1年間の無事故無違反達成者への表彰制度もあります。若手社員や事故惹起者の社有車には、早くからテレマティクス※を導入していますが、現在は全営業車にドライブレコーダー一体型のテレマティクス導入を進めており、2022年末には全営業車両が安全機能装備となる見通しです。また本社北門では近隣小学生の登校時に社員のボランティアで交通誘導を毎日行っています。視覚障害者の交通事故防止を目的とした、地域のラジオ局の「通りゃんせ基金」キャンペーンに長年協賛しています。

情報セキュリティ

情報セキュリティは、ICTマネジメント部が主導して推進を行っています。まずシステム管理や個人情報保護に関する「情報システム管理規程」ならびに「情報システム管理規程細則」を定め、情報・データの安全性や正確性の確保、利用方法などの伝達・啓発とそれらの随時見直しを行っています。ウイルスやマルウェア対策として、ゼロトラストセキュリティモデルをベースに、各種セキュリティアプリケーションやメールフィルタリングサービスを導入。更にグループウェアの「Zweb」を利用し、セキュリティに関する注意喚起と啓発・指示を行っています。またシステムのユーザーである社内部門からの要望や、トラブル等の問い合わせなどをデータベース化し、継続的な改善

ビジネスパートナーとの関係

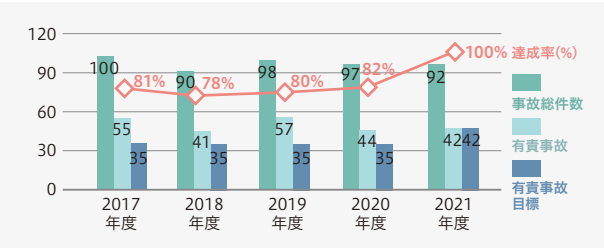
ビジネスパートナー（以下BP）は、事業遂行において重要かつ大切な存在で、CSRはBPと一体になって推進されるべきものと考え、日頃からBPとの関係強化を図っています。主要なBPにはアンケートを毎年実施し、ゼノアックへの評価と課題を聞き取り、その解決（フォロー）を行っています。このくり返しが相互理解を深め、信頼できる関係づく

保護規程」で運用を行っていますが、現在まで個人情報に関わる重大事故の発生はありません。また2015年度にはマイナンバー法に対応するため、新たに「特定個人情報取扱規程」を策定し、厳重な管理と運用を行っています。

これらの取り組みにより、2021年度には福島県警察本部と福島県安全運転管理者協会から表彰を受けました。

※テレマティクス：車両運行管理システム。車両に設置したセンサーとGPSにより運行状況が記録され、危険を伴う運転の場合は直ちに運転者とその監督者にアラートが発生する仕組み。

●車両事故（自損を含む）の発生件数の推移



に努めています。

その他、無停電電源装置やファイアウォールの設置、アクセス権限設定、サーバ室の入室認証、端末監視システムなど一般的なセキュリティ対策のほか、PCのHDD暗号化、MDMによるスマートフォン・タブレットの管理や遠隔消去など、活用が増加するモバイル環境への対策も行っています。システム異常メールが即時に情報管理担当者の携帯電話に配信される24時間監視の仕組みもあり、夜間の緊急作業等を行うことで翌日の業務への影響を最小限にしています。一部の基幹システムサーバは本社（郡山市）と社外（西日本）のデータセンターとで冗長化され、大災害の発生にも事業継続が可能な備えをしています。

りに寄与しています。BPとは知的財産や個人情報等の機密保持を確実に行之、公正で真摯な取引を行っています。BPとは単なる取引先という関係にとどまらず、積極的な協働によって新たな価値を創造していく関係を目指しています。

04 環境への取り組み

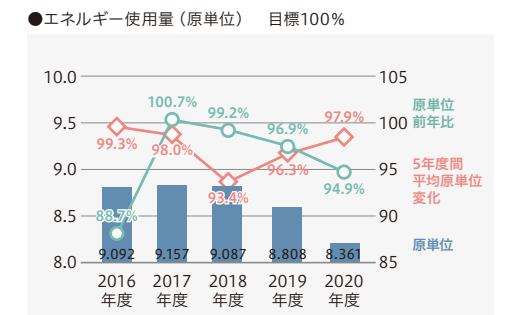
環境問題の重要性を理解し、 自覚をもって行動

ゼノアックは、地球環境の保全が人と動物が幸福に共存するために重要であると考え、あらゆる企業活動において地球環境への配慮と維持向上に努めています。環境法令・規準を遵守し、さらに、環境を保全・向上させるため、資源・エネルギーの効率的利用と排出物の削減、製品・生産プロセスが環境に与える影響についての評価とその軽減を図ります。また、環境に配慮したもののづくりとそのための技術開発に努め、環境に悪影響を与え、または与える恐れがある場合には、その除去および改善に迅速・的確に対応します。さらに地域社会の環境保全向上活動に協力し、公正・適切な情報を提供するとともに、社員一人ひとりが環境問題の重要性を理解し、自覚をもって行動します。



省エネルギー委員会

全社及び各部門でエネルギー使用の合理化目標と実施計画を設定・実行し、定期的に達成度の確認を行い、必要に応じて改善の措置を講じることが省エネルギー委員会の役割です。エネルギー使用の合理化目標は、「5年間平均原単位」において年1%以上の低減です。2017年度以降はこの目標を達成し続けています。（2021年度データは集計中）
なお2020年度には、電気の有効利用、省資源・省エネルギーの推進等、エネルギー使用合理化の成果が顕著であるとして、東北経済産業局より「エネルギー管理優良工場委員長表彰」を受けています。



エコ・環境推進チームの設置と活動

これまで「環境管理チーム」は主に本社敷地内の環境整備や施設管理などを行っていましたが、全社的にエコロジーと環境保全を推進するためにチーム組織を改編し、2010年度に「エコ・環境推進チーム」を設置しました。その役割は年々重要度を増し、改正省エネ法など環境関連法令に関する対応に取り組んでいます。毎日のエネルギー管理や環境保全業務のほか、省エネルギー委員会では事務局を担当し、またチームメンバーはエコ検定にもチャレンジするなど、積極的な活動でその役割を果たしています。

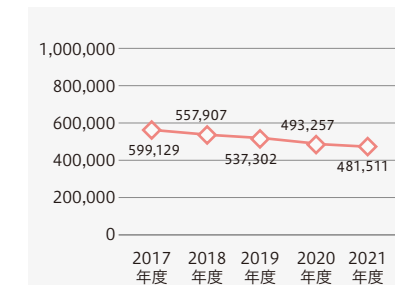


▲敷地内エネルギー管理

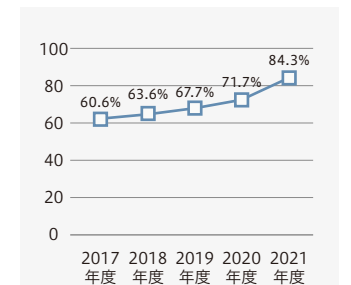
エコカーの導入促進

ゼノアックでは営業車輛約350台を保有することから、2012年以降エコカー（ハイブリッド車）の導入を積極的に行いCO₂排出削減に努めています。2019年度末時点では保有車両の71.7%がエコカーとなっており、ガソリン消費量も、2019年度は前年比で4%、2020年度は8%の削減を達成しています。

●年間ガソリン総消費量の推移(L)



●エコカー比率の推移(%)



環境配慮型エネルギーへの転換

LNGの利用

生産工程に使用するボイラーの燃料を、2013年度より重油からLNG（液化天然ガス）へ転換し、より効率的な運用も行うことで、省エネルギーとCO₂・窒素酸化物・硫黄酸化物の排出削減を行っています。



太陽光・風力発電

本社の研修管理棟は、太陽光発電と風力発電の自然エネルギーを活用しています。またエネルギー（電力）使用量やCO²の排出量を表示するデジタルサイネージを研修管理棟エントランスや社員食堂に設置し、省エネに対する意識を高める取り組みを行っています。このほか各施設や拠点においては、省エネタイプの照明器具（LED）への順次交換や二重窓の取り付けなど、節電と経費削減に成果を上げています。



▲太陽光発電と風力発電

脱プラスチックの推進

海洋プラスチックごみが海の生態系に重大な影響を与えるとして、脱プラスチックへの動きが世界で加速しています。ゼノアックは2019年より、製品出荷時に使用していたプラスチック緩衝材を紙緩衝材に全面的に切り替えることで、脱プラスチックを前進させました。紙緩衝材に使用されるクラフト紙の原料は間伐材から作られた100%バージンパルプで、環境に優しいFSC®認証※を受けています。

また緩衝材を高速排出できるこのシステムの導入により、出荷作業時間が大幅に短縮し、資材コストとあわせたトータル経費も削減することができました。



※FSC® 認証：FSC®（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）は、木材を生産する世界の森林と、その森林から切り出された木材の流通や加工のプロセスを認証する国際機関で、その認証は、森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなう、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられます。この FSC のマークが入った製品を買うことで、消費者は世界の森林保全を間接的に応援できる仕組みです。

電子化推進による環境対応

WEB 会議システムの活用

ゼノアックでは2009年度よりWEB会議システムを導入しています。これによりさまざまな交通手段による移動で発生するCO²の削減に貢献し、また交通費や移動時間の削減にも役立っています。新型コロナ対策による在宅勤務の推進もあり、2019年度末からはWEB会議システムをこれまでよりも積極的に活用するようになりました。

紙の使用削減

社内で使用する書類は、可能な限り電子化を行うことで紙の削減を行っています。電子メールのほか社内での連絡や書類の共有はクラウドサービスをメインで利用し、稟議・回議はほとんどワークフローシステムで行っています。近年ではチームワーク向けのプラットフォームを活用することで一層の電子化が進みました。これらにより、会議資料や保存資料などのほとんどの紙資料が削減されています。なお、社内の複合機は計画的に最新の省エネタイプに入替えを行い、部署別に出力枚数の集計・管理も行っています。

リサイクル活動

お客様への製品発送においては、可能な限りダンボール箱を再利用しています。再利用のダンボール箱には、オリジナルの「エコシール」を元の製品名等の上に貼り付けることにより、お客様が誤認されないように工夫を加えています。また、通常は廃棄されることになるラップフィルム、バンド、破損プラスチックパレットなどは廃棄せず、再利用できる専門業者を選択してリサイクルを進めています。



◀ 配送ダンボール箱の再利用



▶ プラスチックバンドの分別

環境法制への対応

環境に関する定期的な測定、届出・報告等、環境関連法規の遵守に努めており、現在、重大な環境関連法規制等の違反はありません。今後も継続して適正管理に努めてゆきます。

1. 産業廃棄物の適正処理

産業廃棄物の委託処理に際しては、委託業者の許可状況を十分に確認しています。また、適切な処理業者との委託契約により、産業廃棄物のリサイクルを推進するとともに、有価物化を推進し、廃棄物の排出量削減にも努めています。

2. フロン排出抑制法

（フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律）

2015年4月より、フロン排出抑制法が施行されました。当社では、冷媒としてフロンを使用する機器を所有しており、この法律に基づき対象となる業務用のエアコン、冷凍冷蔵装置について機器の管理、フロン類の適正管理を行っています。

3. 排水浄化処理

当社の工場および研究所では、排水処理施設により、排水は全て浄化処理をしてから河川・公共下水道に排出しています。定期的に水質検査を実施し、適正に管理を行っています。

毒物及び劇物取締法への対応

ゼノアックでは、毒物及び劇物取締法に従い、毒物及び劇物の管理を実施しています。法で定められた医薬用外の毒物及び劇物の取り扱いに際しSOP（標準操作手順書）を定め、運営管理者から任命された毒物劇物取扱責任者と副責任者が中心となり、法令と本手順書に従って適正に行われるよう管理方法を定めて注意喚起を行うほか、全体教育やOJTにより指導し、保健衛生上の危害の防止に努めています。

PRTR 法と福島県化学物質適正管理指針への対応

ゼノアックでは、PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）と福島県化学物質適正管理指針に従い、1年間の該当化合物の取扱量と保管量について調査・集計し、毎年6月に報告しています。

病原体の管理

ワクチンの規格試験等で使用する病原体のうち、国民保護法に基づく調査該当病原体と家畜伝染病予防法病原体所持規制該当病原体については、保管・取扱場所の入出者を制限し、かつ社内外への汚染・拡散を防止するために取扱施設基準に適合した実験室で適切に取り扱っています。



05 社会貢献

ゼノアックの持つ独自性を活かして 地域発展に寄与する

ゼノアックが取り組む社会貢献の範囲は、畜産・動物関連業界、動物薬業界に関する取り組みや、ゼノアックの持つ独自性を活かし地域発展に寄与する取り組みとしています。2014年には「社会貢献活動の基本的考え方」を定め、事業活動を通じた活動に加え、社員の自主性に基づく活動を推奨しています。

1. ゼノアックが持つスキルやノウハウ、経営資源を活かして、動物と人を取り巻く社会が抱える課題の解決につながる貢献活動に取り組みます。
2. 共通の価値観を持つ外部組織等との連携や寄付活動を通じて、動物の福祉向上や命を守る貢献活動に取り組みます。
3. 地域社会を構成する一員として、地域社会からの要請に応える貢献活動に取り組みます。

お客様に対して

しゃくなげ会

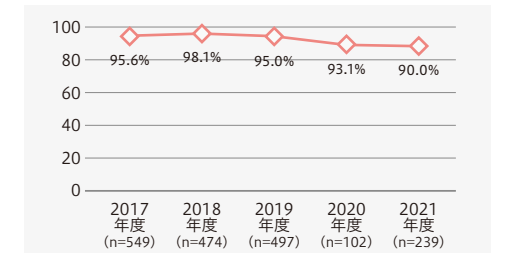
1961年、創業者が畜産先進国アメリカを視察した際、自社の発展は日本の畜産の発展にあることに気づき、のちに畜産技術者と臨床獣医師の技術向上と交流の場を提供する「しゃくなげ会」を立ち上げました。1969年に設立した北海道しゃくなげ会をはじめ、50年が経過した今では全国36都道府県を網羅する10の地区しゃくなげ会研修会が開催され、毎年全国でおよそ1,100名が参加するまでになりました。2020年は新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされましたが、2021年度は8箇所で開催されました。

研修会のテーマは、各地区の臨床獣医師を主体としたしゃくなげ会役員会でタイムリーかつ地域に密着した内容となるよう検討しています。また、アンケートを実施し、その結果をしゃくなげ会のホームページや次年度の研修会テキストにも掲載し、運営の改善に役立てています。長年の実績により、地区しゃくなげ会は（公社）日本獣医師会の「獣医師生涯研修事業」に民間企業の研修会で唯一認定されており、獣医師、畜産関係者の卒後教育の場として畜産界発展に寄与しています。



▲2020年2月に開催された北海道しゃくなげ会オンラインの様子

●しゃくなげ会満足度の推移



●しゃくなげ会の歴史と実績

会 名	北海道	北東北	南東北	関東	東海	中国	近畿	北部九州	宮崎	鹿児島	ゼノアック エクステンションセミナー
設立年度	1969	2007	2009	1980	2004	1985	1996	1983	1977	1977	2003
単独開催回数	54	11	9	41	18	35	23	36	42	42	17
2019年度 参加人数	248	77	95	214	46	98	84	49	93		30
2020年度 アクセス数	1,052	—	—	—	165	—	—	—	—	—	—
2021年度 アクセス数	945	—	—	961	364	207	163	176	319		30
獣医師 生涯研修	3 ポイント	2 ポイント	2 ポイント	2 ポイント				2 ポイント			

ゼノアックエクステンションセミナー

しゃくなげ会が座学中心の研修会であるのに対し、本セミナーは「実習」が主体です。前身は「全国しゃくなげ会」で、1968年から毎年本社で開催され、全国から約100名の産業動物臨床獣医師が参加していました。その後高度化した本格的な実習とするため、2003年に名称を「ゼノアックエクステンションセミナー」と改め、最新の实習施設・機器を保有する獣医系大学と連携し開催するようになりました。実習をより実りあるものとするため参加者数もそれまでの半分に絞り、若手・中堅獣医師を対象とした2日間にわたる集中セミナーとしました。これまでに酪農学園大学、岩手大学、麻布大学と連携し、輸液、蹄病、ダウナー症候群、繁殖などをテーマとして開催しています。地区しゃくなげ会同様にアンケートを実施し、運営の改善に役立てています。2020年度は中止となりましたが、2021年度は規模を縮小しオンラインで開催しています。



▲セミナーにおける実習風景

日本の畜産を応援する WEB マガジン「どっこいしょニッポン」

「どっこいしょニッポン」は、食の安心・安全を追求する国産畜産物の消費を促し、同時に畜産業界が抱えている高齢化や後継者問題などの課題について向き合い、さらには畜産業のイメージアップと興味・関心を広げることを目指した活動です。WEBサイトを2016年4月に立ち上げ、一般消費者の皆様には日本の畜産の魅力を伝えるとともに、畜産関係者と消費者との双方向コミュニケーションの場となることを目指し情報の配信を行っています。サイトでは「はたらく」「たべる」「くらす」「つながる」の4つの切り口のコンテンツを配信し、サイトを訪れた皆様それぞれの視点から考え、理解して頂けることを願っています。



◀ どっこいしょニッポン
サイト
http://dokkoisyo.jp/



◀ どっこいしょニッポン
Facebook
https://www.facebook.com/-
dokkoisyo.web/



◀ どっこいしょニッポン
Twitter
https://twitter.com/-
dokkoisyonippon



◀ どっこいしょニッポン
Instagram
http://instagram.com/dokko-
isyo_nippon



◀ どっこいしょニッポンYouTube
https://www.youtube.com/c/dokkoisyonippon

▶ どっこいしょニッポンのサイト、SNSをご覧ください



TOPICS どっこいしょニッポンでは、様々な取り組みを行っています。

阪神百貨店「食祭テラス」に参加

2021年11月23日～29日まで大阪阪神百貨店で開催された「牧場北海道」に、どっこいしょニッポンがプレゼンターとして参加しました。ブースでは、『酪農家からの挑戦状』と銘打って、酪農家からの牛にまつわるクイズや、おいしい牛乳やチーズ、ピザ、ケーキの向こうにつながる人たちや牛たちの姿を感じられる食のイベントが開催されました。



▶ <https://dokkoisyo.jp/join/6933/>



農高マルシェ開催

2022年2月21日に高校生向けフリーマガジンの「ch(シーエイチファイルズ)」と共同で開催してきた「農高アカデミー」から誕生した「農高マルシェ」が開催されました。『農高マルシェ』は日々動物と向き合い、人と動物との関係について考える高校生が大切に育てる牛や豚、鶏から生み出された商品、その活動をぜひ多くの人に知ってもらいたいと始めたプロジェクトです。クラウドファンディングを利用し、注目の農業高校3校の六次化商品を販売しました。87人の支援により目標金額を大きく上回る548,139円で終了しました。

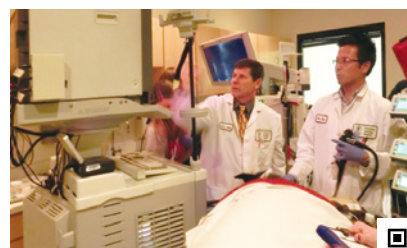


▶ <https://dokkoisyo.jp/join/7074/>



専門医を志す若手獣医師の留学支援

人体医療と同様、獣医療でも専門医教育の必要性が高まっています。2012年に設立された日本獣医学専門医奨学金基金（JFVSS: Japanese Foundation for Veterinary Specialist Scholarship）に対し、ゼノアックはゴールドスポンサーとしてサポートを続けています。これは、獣医療先進機関である米国コロラド州立大学で、専門医教育を受けるための奨学金となります。



▶ <http://jfvss.jp/>



家畜感染症発生時の支援

日本国内では、これまで畜産関連の感染症によって多大な被害が発生しています。ゼノアックでは感染地域に対し自治体や地元獣医師会を通じて、消毒薬などの無償提供を提携メーカーと協力して行っています。2000年に宮崎県で発生した口蹄疫では消毒剤の無償提供、2004年に九州一円に発生した鳥インフルエンザには、日本養鶏協会を通じて養鶏生産者に消毒剤の無償提供、2010年の口蹄疫では社長を

本部長とする緊急対策本部を設け、消毒剤や鎮静剤の無償提供のほか、社員有志からの募金を含む義援金の寄贈、終息宣言が出るまでの間の獣医師（社員）派遣、消毒剤等の優先的供給等を行いました。近年では2020年に全国的に感染が広がった鳥インフルエンザへの対応として、メーカーと協力しお客様へ消毒剤を直接提供しました。

動物と飼い主に対して

セーブペットプロジェクト

ビジネスパートナーであるベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン（株）と共に、犬猫の殺処分問題に取り組む活動として、2010年度より「セーブペットプロジェクト」を立ち上げ推進しています。この活動は、ノミ・マダニ駆除薬市場No.1ブランドであるフロントラインの売上の一部を寄付することからスタートし、現在ではネクスガード、ネクスガードスペクトラ、ブロードラインさらに犬フィラリア症予防薬カルドメックの売上の一部、犬用デンタルガムのオーラベットの売り上げの一部も寄付されるようになりました。これらは主に殺処分低減に向けた様々な啓発や保護動物の譲渡を行う団体への寄付（保護犬・猫の医療費）、マイクロチップの普及活動などに充てられています。



▶ <https://twitter.com/savepetproject>



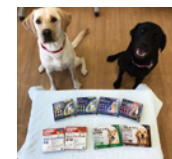
▶ ノミダニフィラリア.COM
<https://n-d-f.com/spp/>



動物福祉団体に製品を寄付

フロントライン、カルドメック、ネクスガードなどの寄生虫駆除剤をはじめとした製品を、かかりつけの動物病院様を通じて動物飼育団体や補助犬飼育団体に寄付しています。

▶ 補助犬協会より送られた写真



身体障がい者補助犬の普及支援

ゼノアックは、身体障がい者補助犬（以下、補助犬）の普及活動を2002年から積極的に支援しています。特定非営利活動法人日本補助犬情報センターとの協力で、補助犬と障がい者の方の社会参加促進のため、様々な課題に優先順位をつけ、真に必要な支援を続けています。最初は人材育成として、米国と国内での介助犬トレーナー研修に対し奨学金制度（ゼノアック・スカラーシップ）を創設して活動を支援しました。受講者の作業療法士・理学療法士は、現在この業界のリーダー的存在として活躍しています。世界初の補助犬学会として日本身体障害者補助犬学会が2005年に設立されましたが、ゼノアックはこの設立準備となる2004年の学術シンポジウムを強力に支援し学会設立に貢献しました。また（社福）日本介助犬協会と繁殖犬導入・飼育・繁殖に関わるプロジェクトを立ち上げ、2012年度までの8年間に67頭の繁殖と29頭の介助犬認定に貢献し、2017年に同協会から感謝状をいただきました。2014年度以降は、補助犬の



▲ <https://s-dog.jp/>



啓発・普及をさらに推し進めてゆくために、日本補助犬情報センターの「補助犬ユーザーへの情報提供と人材教育及び各種調査」に関わる運営資金をサポートしています。

これらのほか各種イベントでの補助犬デモンストレーションの協力、補助犬法の設立や改正に対する社員の署名、補助犬育成団体への製品供給、我が国初の本格的な介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」への支援などを行う一方、補助犬ユーザー様を交えた社内セミナーを開催するなど社員の補助犬に対する理解とリテラシー向上にも努めています。

動物を守るさまざまな取り組み

「乳がんで苦しむ猫をゼロにする」。ゼノアックはJVCOG（一般社団法人日本獣医がん臨床研究グループ）が2019年から取り組んでいる猫の乳がんを予防するための「キャットリボン運動」に協賛しています。また、天然記念物である沖縄のイリオモテヤマネコを守るために、医療施設に対して感染症予防ワクチンを無償提供しています。シカと列車がぶつかる鉄道事故を減らすことにも当社製品が貢献しています。「ユクル」はゼノアックが強みとする固形化技術を活かした野生のシカ向けの固形塩で、シカが好む鉄分などのミネラルを配合し、長期耐水性にも優れています。鉄分を摂取するために鉄道へ入りレールを舐めるシカに対し、シカが頻繁に出没する場所へユクルを設置すれば、シカはその場でユクルを舐め続け鉄道には近づかなくなります。日鐵住金建材が企画・発売し、ゼノアックが製造した誘鹿材「ユクル」は、「シカが求めるモノとヒトが求めるコト」を両立したデザインが評価され2016年度グッドデザイン賞と第13回エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞しています。

身近にある社会貢献活動

社員個人が気軽に出来る社会貢献として、使用済切手、リングブル、ペットボトルキャップ、ベルマークなどの収集や各拠点に設置している自動販売機での購入があり、これらを動物福祉団体に寄付する活動を行っています。寄付型自販機は2015年度から本社と小林工場で設置し、これらの売上金の2～5%を（公社）アニマルドネーションとしつぽ

ネットに、使用済み切手は（社）日本動物福祉協会に、そのほかは各種ボランティア団体にお届けしています。ちょっとした意識の持ち方が社会貢献への参画につながります。社員の家族にも協力を得ながら、これらの活動が継続されています。

地域や社会に対して

献血活動

創業者の福井貞一は、福島県薬剤師会会長に就任した1985年、保健衛生団体や経済団体、各種ボランティア団体の協力を得、「福島県献血推進協力会」を設立、初代会長となり献血推進のPRや献血ネットワークづくり、郡山駅構内（現在はダイワロイネットホテル3階に移転）の献血ルーム開設などの活動に尽力しました。そして社員は現在も、年2回の献血活動に参加しています。多年にわたる献血活動への積極的な参加に対し、2016年に日本赤十字社より、最高章である「金色有功章」を頂きました。このような由緒ある章を受章できたことは大変な名誉であり、これからも人が支える命の尊さを大事にしていきます。



▲イベントでのデモンストレーション

▲2018年度実施の社内セミナー



▲猫の乳がんを予防するための「キャットリボン運動」
<https://catribbon.jp/>

◀誘鹿材「ユクル」

福島県経営品質研究会の創設

ゼノアックは日本経営品質賞の受賞を機に、会津若松経営品質協議会の会員企業や県中地区の有力組織とともに、2018年7月、福島県経営品質研究会（FMQ）を立ち上げました。そして幹事組織として人材や施設を活かした運営を行っています。福島県内企業・組織の経営品質を高めること、そのために会員が協力して学び合い気づき合う場を提供することを目的とし、福島県の復興と事業開発向上に貢献したいと考えています。現在会員組織は40余りで、日本経営品質賞の受賞企業を招いた講演会を年に2回、そして経営品質の理解と実践のためのセミナー（2コース）をそれぞれ年に4回程度開催していますが、2020年度、2021年度はオンラインで開催しました。組織の経営品質向上は、従業員の働きがいの向上や組織にイノベーションを生み出す環境づくりなどに貢献します。地域の組織が協力し切磋琢磨してそれらの活動に取組むことで、地域の継続的な発展に寄与します。



▲2021年度の研修会の様子

TOPICS

ひまわりプロジェクト

ゼノアックは、2018年よりNPO法人チームふくしまが実施している「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加しています。この活動は、プロジェクトに賛同した企業や個人によりひまわりが育てられます。開花後に回収された種を里親プロジェクトに戻し、福島県内の障がい者福祉作業所で搾油し、福島県内を走るバスの燃料にします。全国と福島の絆を深め、さらに障がい者雇用にもつながるプロジェクトです。このひまわりは、本社敷地内や社員宅でも育てられ、多くの種が活用されています。



児童、生徒、学生に対して

インターンシップと職場体験

学生の就業意識向上を目的として、外部団体が主催する高校生対象のインターンシップへの参画や、就職を控えた大学生のためのインターンシップを行なっています。獣医師や薬剤師を目指す学生に対する独自のインターンシップも行い、業界の特徴、企業で求められること、社会での役割などを、先輩社員とのグループディスカッションなどを通じて伝えています。また研究開発から製品流通まで、生徒・学生の要望に応じた幅広い職場体験や、児童・生徒の会社見学も随時行っています。



揚州大へのゼノアック奨学金制度

中国揚州大学獣医学部は中国における農業関係大学の名門であり、中国農業部が指定する動物用医薬品の試験機関でもあります。ゼノアックは2016年に同学部と戦略的提携関係を締結し、あわせてゼノアック奨学金を設置しました。

計3年、各年計5.5万元（100万円弱）の給付を2016年から行っています。（学部生15名、修士課程10名、博士課程5名）。2019年より契約更新で奨学金の規模を若干縮小しましたが、2021年まで継続しています。

日本パスツール財団への寄付

ゼノアックでは、科学分野における研究がより良いものになるよう、2020年から日本パスツール財団への寄付を行っています。この機関は、学生、研究者及び一般市民を対象に、生命科学分野における日本とフランス、その他海外研究機関などとの間で研究者・学生の派遣、受け入れ等の交流を盛んにし、その為の奨学金給費等を行っています。また、海外の最先端の生命科学分野の調査研究、資料収集を促進し、そこから得た資料・情報・知識を学生、研究者及び一般市民に提供しています。

▶ <https://zaidan.pasteur.jp/>



自然災害への被災地支援

ゼノアックは全国に販売拠点を有し、それぞれが地元社会とのつながりを大切にしています。広範囲な自然災害の発生に対してはそれぞれの自治体や獣医師会を通じて支援を行っています。2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2017年の北部九州豪雨への支援をはじめ、2018年の

西日本豪雨では、福島民報教育福祉事業団を通じ日本赤十字社へ100万円を寄付、2019年の台風19号では福島県内の各自治体に対し消毒用の消石灰とマスクなどの支援物資を提供しました。

グローバルな社会貢献

HealthforAnimals のコーポレートメンバーとしての取り組み

2019年3月、ゼノアックはHealthforAnimals（ヘルスフォーアニマルズ）のコーポレートメンバーになりました。日本では（公社）日本動物用医薬品協会がメンバーとなっていますが、日本を含むアジアのコーポレートメンバーとしては当社が初めての選任です。同団体は、開発国と開発途上国におけるアニマルヘルス企業と各国のアニマルヘルス協会の代表によって構成されている非営利・非政府組織で、「動物を疾病から守ることで人を疾病から守る」という価値を社会に提供します。抗生剤の薬剤耐性菌や新型コロナウイルスなど健康に関する問題、動物福祉、

環境問題など、さまざまなサステナビリティへの取り組みを行っています。2020年は新型コロナウイルスに関するメッセージや、コーポレートメンバーによるSDGsの取り組みなどを発信しました。世界のアニマルヘルス発展のため、当社は重責を全うしていきます。

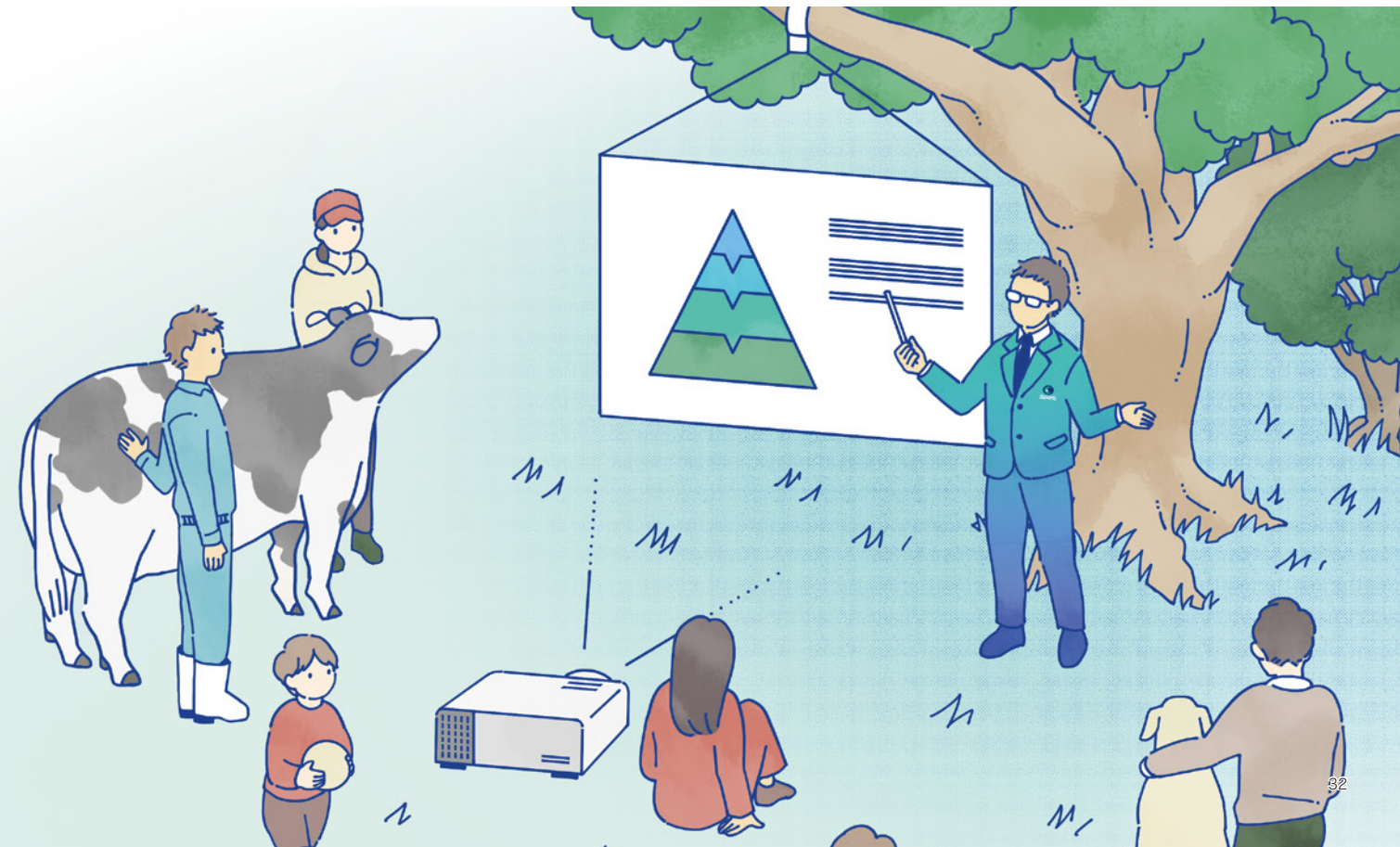
▶ <https://healthforanimals.org/>



06 ガバナンス

透明・公正な組織統治の実現

ゼノアックは、全てのステークホルダーに提供する企業価値を向上させるため、コーポレート・ガバナンスを継続的に強化していきます。会社組織や経営体制を整備して経営の透明性・公正性を確保し、迅速な意思決定を行うとともに、効率的な経営による経営基盤と競争力の強化を図ります。



コーポレートガバナンス

主な定例会議

ゼノアックの取締役は9名で構成され、月に二回開催される取締役会で重要事項を決定しています。また、部署長によるPCM会議は、毎月第一営業日に開催され、部署間の課題解決や連携について検討を行い、実務が伴う課題や継続審議事項などについては小部会を設けて対応しています。

方針の伝達

経営方針説明会や月初めに行う全体朝礼は、全国の拠点を一斉にオンラインで結び、社長が自らの考え方や方針を直接社員に伝える場となっています。この映像はアーカイブされ、いつでもイントラネットで視聴することが可能です。また経営方針はイントラネットのほか、昭和40年から続く社内報にも長年掲載するなど、あらゆる機会を通じて、あるべき姿や経営方針、価値観の共有を図っています。



CSR の考え方

CSR と委員会の活動領域

ゼノアックには7つの委員会があり、一般的なCSRの概念においてはこの7委員会の活動すべてによってCSRを推進しています。CSR委員会は全般的なコンプライアンス向上と社会貢献の活動、CS委員会はお客様満足度向上のための活動、ES委員会は社員満足度向上のための活動、危機管理(RA)委員会は危機管理の活動、省エネルギー委員会は省

エネルギー推進の活動、安全衛生委員会は社員の安全衛生に関する活動、薬事コンプライアンス委員会は薬事の法令遵守に関する活動を行っています。各委員会は定例会議のほか、独自に課題の抽出と適切な対策を推進し、振り返りと次のアクションの策定につなげています。

- ※ 1. 事業に関わる法令および企業倫理の遵守
- 2. 社会的に有用な製品・サービスの提供と安全性の確保
- 3. 動物の価値、人間と動物との共生

ゼノアック CSR 基本方針

ゼノアックは、経営理念の実現に向けて「コンプライアンス行動規準」で定めた基本姿勢*のもと、動物用医薬品企業としての社会的責任を果たすとともに、社会の一員として信頼と共感をいただけるよう積極的に社会貢献活動に取り組めます。

TOPICS

はばたく中小企業・小規模事業者 300 社選定

ゼノアックは、2021年12月に経済産業省の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」として選定され、表彰されました。この「はばたく中小企業・小規模事業者300社」は、今ある世の中の課題をチャンスと捉え、「生産性向上」「需要獲得」「人材育成」の3つの分野で果敢な挑戦をし、独自のアイデアや技術で解決し、成果を出した中小企業・小規模事業者が全国から選定されます。ゼノアックは、「需要獲得」という分野で選定されました。

コンプライアンス行動規準

2004年、危機管理(RA)委員会はコンプライアンスの推進のためのスタンダード(行動憲章)と組織作りに着手し、2005年4月に「ゼノアック・コンプライアンス行動規準」を作成し、コンプライアンス推進委員会(のちのCSR委員会)を発足させました。行動規準はハンドブックとして全社員に配布し、新入社員研修を始め、各部署で実施するコンプライアンス教育やイントラネットで展開するなど、さまざまな機会を通じてその内容や考え方への理解を深めています。時代の要請に応えるため、2012年、2021年に改定を行っています。



経営品質(MQ)向上活動

ゼノアックは、その社会的使命やビジョンの実現のため、2008年度より経営品質向上活動(MQ*プロジェクト)を開始しました。すべての業務プロセスの改善・革新とその振り返りを行い、PDCAサイクルを回していく取り組みです。この活動は日本生産性本部の経営品質協議会が推進するもので、基本理念(顧客本位、独自能力、社員重視、社会との調和)に基づいて行われます。

当社のプロジェクトは発足当初、部長以上と指名者の50名を越える大規模なメンバーで構成され、毎月開催される会議で事例の共有や課題の進捗確認、理念の共有、研究等を行いました。そして自ら振り返りを行うセルフアセスメント、もしくは外部(専門家)によるアセスメントを毎年定期的に実施し、評価と課題の抽出、施策の策定と実行を継続してきました。それらの成果により、2012年度には「日本経営品質賞経営革新推進賞」、2016年度には目標としていた「日本経営品質賞(大企業部門)」を受賞しました。北海道・東北の民間企業で初、動物薬・ペット・畜産業界でも初の受賞となりました。

ゼノアックの活動の特徴は、50名を越える認定セルフアセッサーを擁し活動の原動力としていること、部署別のほか拠点別でもセルフアセスメントを毎年行っていること、セルフアセッサーは自部署のみならず他部署のアセスメントにも参加する“クロスアセスメント”を行うことで、組織力を活かし、これを更に高めていることです。セルフアセスメントは全従業員が参加しますので、現場レベルで経営品質への意識を高めることにつながっています。

日本経営品質賞の受賞企業となったのちは、さまざまな組織からのベンチマーキングの受入や役員による講演活動などを行っています。地元福島 の発展と復興に貢献すべく、幹事組織とともに「福島県経営品質研究会」を2018年に立ち上げ、活動を開始しました。

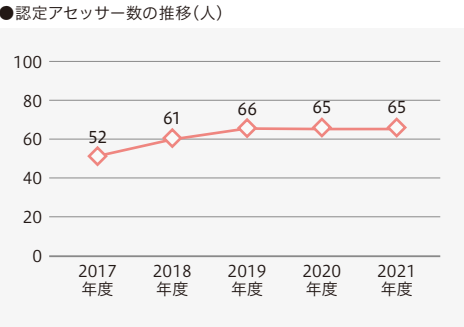
※MQ: Management Quality (経営品質)



▲アセッサーミーティングの様子



▲部署別セルフアセスメントの様子



車座対話

経営幹部が5〜7人の社員(嘱託、パート含む)と車座になり、時には飲食をともにしながら自由に対話をします。社長、副社長、専務は部署横断的なメンバーと、部署担当役員はそれぞれの部署のメンバーと定期的に関わり、役員による車座対話の参加者は年間のべ2千人を越えます。テーマは経営品質の4つの考え方をベースにそれぞれが工夫をし、社員は忌憚のない意

見を述べ、経営幹部は社員に直接語りかけることで、お互いの理解が深まります。これは社員満足につながるだけでなく、意見は経営にも反映されます。それゆえ車座対話は、最も重要な経営施策の一つに位置づけられています。



危機管理(RA)委員会

危機管理（RA※）委員会は2002年3月に設立され、自然災害や伝染病、事故、事件などについて発生時対策と平時のコントロール（チェック、予防、準備、啓発、訓練等）を行っており、これまで各種の危機管理マニュアルと事業継続計画（BCP）の作成・改訂を行っています。危機発生時には緊急対策本部を立ち上げ、経営幹部をサポートします。実務においては総務チームと連携を取り、各拠点の「防災ガイドブック」の浸透や、危機管理マニュアルのメンテナンス、部署連携による危機管理体制強化として防災体制の周知や防災訓練、AED訓練などを実施しています。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症にも、RA委

員会が指揮を執って対応しました。社内外の感染防止徹底、危機管理マニュアルの作成、状況に応じた連絡指示、感染者発生時の対応など、総務部を中心に関係部署と密に連携をとって感染拡大防止に努めました。

※RA：Risk Assessment（リスク評価）。委員会はリスク評価を行い、経営幹部が最終的なリスクマネジメントを行う。



▲AED講習の様子



▲本社全体の避難訓練の様子

リスクマネジメント

ゼノアックはリスクについて、通常業務において発生する「ビジネスリスク」と、災害や事件・事故等による「突発的なリスク」そして「コンプライアンス上のリスク」の3つに分類し、マネジメントを行っています。ビジネスリスクについては、各部署が事業計画（中期計画や年度計画）においてそれらを管理します。年度計画においては、さらに各部署の各施策別に想定されるリスクを抽出し、その対応策を事前に策定します。これらは部署別で事業計画全体についてのヒアリングを受け、最終的に取締役会の承認を経て実行・管理されます。

突発的なリスクについてはRA(危機管理)委員会が担当します。事業継続計画（BCP）や危機管理マニュアルの策定・改訂をはじめ、危機に備えるための様々な準備や啓発活動をRA委員会が行っています。全社的な危機に発展する可能性のある事案が発生した際には、社長をトップとする「緊急対策本部」が設置され、対応を行います。コンプライアンスの欠如によって発生するリスクについては、CSR委員会によるアセスメントと予防（教育・啓発）が行われています。

●リスク分類別の対応と組織

リスク分類	ビジネスリスク	突発性リスク	コンプライアンスリスク
リスク分類の例	・販売不振 ・売掛滞留金の増加 ・不良品・副作用の発生 ・伝染病（家畜）の発生 ・為替変動 ・顧客/提携先の倒産、M&Aなど	・自然災害（地震、風水害等） ・交通事故 ・風評被害 ・伝染病（家畜・ヒト）の発生 ・不良品・副作用の深刻化 ・テロ、殺人、誘拐など	・薬事関連法違反 ・不正取引 ・個人情報漏洩 ・ハラスメント ・長時間労働 ・環境汚染、など
主担当組織	各部署、各本部	危機管理委員会	CSR委員会
予防対策	リスク想定と事前対応（事業計画書）	・危機管理マニュアル ・事業継続計画（BCP） ・交通安全教育 ・自社・他社の危機事例の共有	・コンプライアンス教育 ・コンプライアンス啓発活動
発生時 対応組織	・担当部署 ・ビジネスパートナー ・経営幹部	・総務チーム ・危機管理委員会 ・緊急対策本部	・発生部署、担当部署 ・危機管理委員会 ・経営幹部

事業継続計画(BCP)

ゼノアックは東日本大震災を機に、大規模地震など事業継続に大きく影響する災害が発生した際に、被害を最小限にして早期の事業復興を図るためのBCPを、RA委員会が中心となって策定しました。BCPでは、継続すべき最重要業務を「製品の受注および発送」と「GMP施設の稼働」の2つと定義し、すべての経営資源を当該業務の遂行に優先的に用いるとしています。BCP発動の判断は、被害規模が両業務それぞれで定めた目標復旧時間（RTO）を越えると想定された場合としています。BCPでは、発動下の緊急対策本部と各部署の役割・メンバー・資源を明記し、組織的な活動が迅速に開始できるようにしています。最重要業務については、復旧手順や復旧に必要な経営資源を明記し、復旧に集中できるよう準備を

整えています。一方で、すべてをマニュアル化することは実践的でないことから、災害発生時の基本方針を定め、方針に沿った形での現場の機敏な判断を活かすようにしています。また、法令上、被害報告が義務づけられている物質（微生物、毒劇物、向精神薬等）を保有していることから、それぞれを管轄する行政への対応までを明記しています。BCPは本文のほか、部署別の課題と対応策をまとめた「リスク事前対策表」や連絡先リスト、被害状況チェックシートなども整備し、定期的なレビューで改定を行っています。また販売拠点ごとにリスクを洗い出し、それらをまとめた「防災ガイドブック」をそれぞれ作成し、イントラネットで共有しています。

TOPICS

ゼノアックホールディングスの設立、ゼノアック本館の完成

日本全薬工業株式会社とゼノアックリソース株式会社は、経営の安定化および事業の拡大を図るため、グループ会社全体を2021年4月1日より再編しました。新たに事業持株会社「ゼノアックホールディングス株式会社」を設立し、動物薬を主とした日本全薬工業株式会社と人体薬を主としたゼノジェンファーマ株式会社（旧ゼノアックリソース株式会社）を完全子会社として傘下に配しています。グループ経営環境の大きな変化の中で、事業ポートフォリオの拡充や戦略的提携、「グローバル企業」への漸進、成長ドライバーとしての人体薬分野への取り組み等々、今後グループが持続的成長を遂げるためには、グループ全体を俯瞰して限られた経営資源の最適配分を行い、事業単位での競争力を強化していく必要があると考え、持株会社制（ホールディングカンパニー制）への移行が適切と判断しました。8月30日には、国内外のお客様をお迎えする施設としてゼノアック本館が完成しました。ゼノアックホールディングス株式会社とゼノジェンファーマ株式会社もここを拠点として事業を行っています。



07 会社概要

人と動物の、一歩先ゆく未来を

いまも、そして未来も、

私たちが目指しているのは、

動物と人との共生です。

そのためにできることを、一歩一歩、少しずつ。



経営理念

**私たちは、動物の価値を高め、
つながる全ての人々の幸福に貢献します。**

当社はこれまで「社は※1」「私たちの社会的使命 ※2」という経営理念を掲げ、組織の存在意義を示し、多くの価値を社会に提供してきました。

これらに使われてきた「幸福」と「動物の価値」は継承したい言葉と位置づけ、新たな経営理念の中でも生き続けて

います。そして新たな価値観として「グローバル」を加えました。これを「つながるすべての人々」と表現し、日本のみならず世界中のステークホルダーの幸福に貢献していくという想いを込めています。

※1 社は：畜産先進国のアメリカ視察で動物薬メーカーの使命に気づきを得、1966年に制定。
「畜産界になくってはならぬ会社になろう ここで働くものが ここににつながるものが すべて幸福になる会社になろう」

※2 私たちの社会的使命：「新創業時代」と銘打った2001年に制定。
「動物が人間にもたらす恵みを豊かにすること、その動物のためになること 私たちは、常に動物の価値を高め、社会の幸せに貢献します」

基本原則

当社の社員に求める基本的な考え方や価値観を、4つの言葉に集約し表現しています。

感謝と真心

先取の精神

境界なき共創

治生産業順正法

先取の精神

は、時代の流れを読み、時代を作っていくためには、自らが積極的に挑戦し新たな価値を生み出していく意識が必要で、誰よりも早く新しいことに取り組むことを求めています。

境界なき共創

は、世界中のパートナーとの多角的な協働により、より多くの研究開発、事業開発の機会と可能性を生み出すことを目指します。

治生産業順正法（じしゅうさんごうしょうぼうにじゅんず）

は、法令の遵守にとどまらず、人間として正しい行動が大切であると、これまでも継承されてきました。これからの事業においても重要な言葉と位置づけています。

感謝と真心

は、創業者の時代から継承してきた、お客様、社員とその家族、提携先・取引先、社会そして動物に対する感謝の気持ちを忘れないという精神です。

ゼノアックプロミス

当社外に対する明確な意思表示として、新たにブランドプロミスを策定しました。
経営理念で描く姿の実現のために、将来にわたって当社が実行していくことをここに宣言し、お客様や社会に対して約束します。

動物がもたらす恵みを世界の人々と分かち合うために。

私たちは、たゆまぬ研鑽を重ね

常に可能性を探求し、動物の価値を高めることで

お客様と社会のニーズに応えます。

そして、動物にとっての健やかな環境と一人ひとりの心安らぐ豊かな暮らしを支えます。

ゼノアックブランド

コーポレートアイデンティティ



ゼノアックのシンボルマークは「動物の瞳」をモチーフにしています。

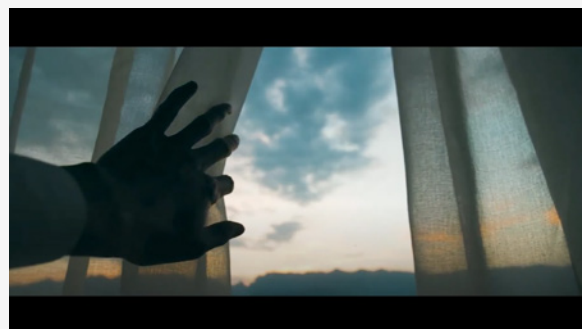
瞳は物や心や出来事を見つめる象徴であり、常に今を見、そこからその先を見つづけ、専門分野を探索し続けるゼノアック・日本全業工業の基本姿勢を表しています。

徐々に広がっていく全体のフォルムは、グローバルな視点で活動し、可能性への視界を広げ発展していく当社の姿をイメージするとともに、動物からの恵みを大切に、動物

タグライン

Gazing at the future

ゼノアックブランドムービー



と人間との健やかな共存、限りない価値の発見を目指していく当社の願いを表しています。ブランドカラーの深いブルーは知性と先進的な企業像を、明るいグリーンは自然の恵みと豊かな社会を象徴。中心部の白は、未来への希望と輝きを表しています。

ゼノアックは、方舟によって多くの動物たちを救った「ノア(Noah)」。積極性や活発さを表す「アクティブ(Active)」。たゆまぬ自己研鑽により、より高度なスキルを習得していく社員の姿を表す「アクアアイ(Acquire)」。そして、日本全業工業が提供する事業活動の総合的な質の高さを「クオリティ(Quality)」を意味する「Q」に込めました。語頭には日本全業工業を象徴する「Zen(全)」と「究極」を意味する「Z」を冠しています。

【Gazing at】は子どもが好奇心をもってキラキラした瞳で見つめる様子です。

私たちゼノアックは不確実な未来に怯えるのではなく、動物たちのため、つながる全ての人たちのために好奇心を持って未来を見つめる姿勢を貫きます。

ゼノアックの価値観を改めてムービーとしてまとめ、社内外に発信し、共有するために2021年に制作されました。

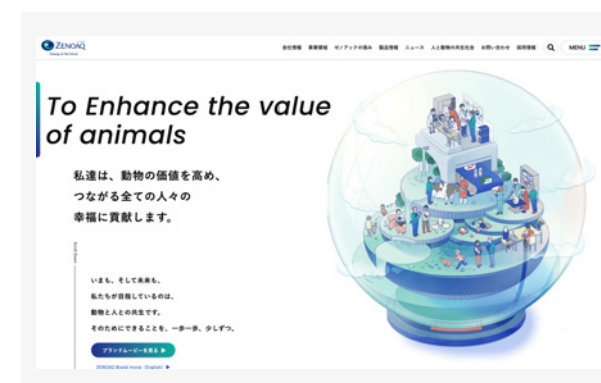


◀ [日本語版]
https://youtu.be/4_dWeTQWWbw



◀ [英語版]
https://youtu.be/937_rlwsLE

コーポレートサイト



ゼノアックは、2022年4月5日にコーポレートサイトをリニューアル公開しました。

サイトに訪れた人が直感的にわかりやすく、ゼノアックを理解しやすいよう意識したつくりになっています。



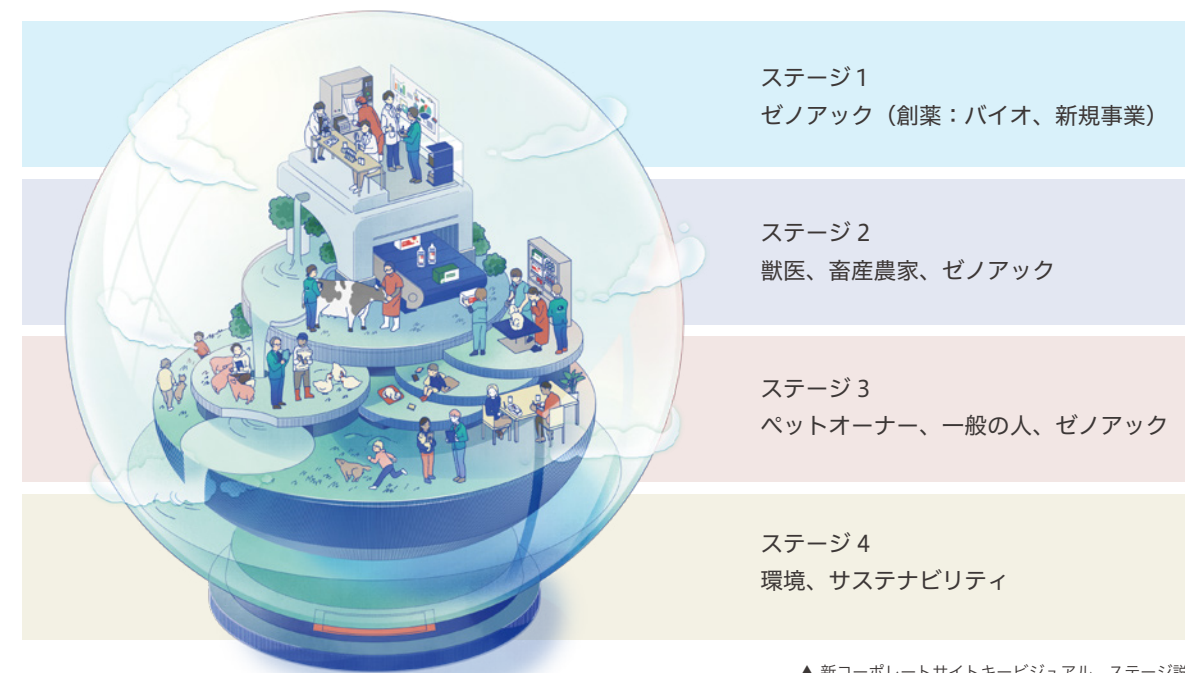
◀ <https://www.zenoaq.com/>

キービジュアル

ゼノアックには、私たちの事業を視覚的に理解していただくためにキービジュアルがあります。

キービジュアルは、経営理念である「私たちは、動物の価値を高め、つながる全ての人々の幸福に貢献します。」の

”つながる全ての人々の幸福に貢献する”を4つのステージに分けて表現しています。コーポレートサイト内のあらゆるページでこのビジュアルを展開しています。



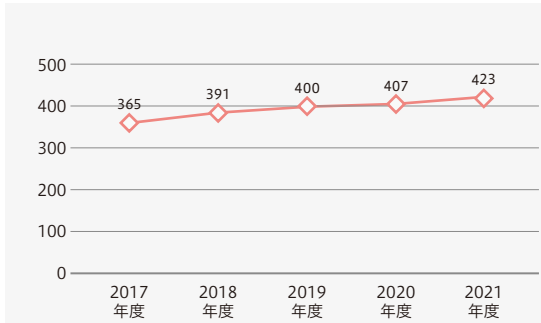
▲ 新コーポレートサイトキービジュアル ステージ説明

会社概要 2022 年 4 月 1 日現在

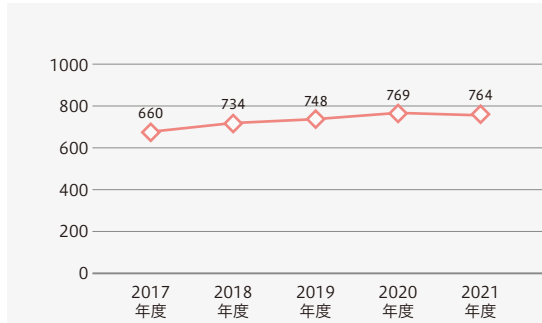
名 称	日本全薬工業株式会社
所 在 地	〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上 1-1 TEL.024-945-2300（代表）
設 立	1946 年（昭和 21 年）5 月
資 本 金	1 億 7,000 万円
代 表 者	代表取締役社長 福井 寿一
事業内容	動物用医薬品及び医療機器等の研究開発・製造・輸出入・販売、バイオ原薬受託製造
株 主	ゼノアックホールディングス株式会社（持株比率 100%）
従業員数	764 名（2022 年 4 月 1 日現在）
売 上 高	423 億（2021 年度）
主な販売先	畜産関係団体、家畜診療所、小動物病院、畜産農家・畜産農場、海外販売代理店
主な提携先 （五十音順）	アイデックス ラボラトリーズ（株）、アリストヘルスアンドニュートリションサイエンス（株）、石原産業（株）、（株）牛越生理学研究所、MSD アニマルヘルス（株）、エランコジャパン（株）、オカダインダストリ（株）、クリングルファーマ（株）、ケミン・ジャパン（株）、（株）サン・メディカ、獣医医療開発（株）、ジンプロアニマルニュートリション（ジャパン）、インク.、スペシャル ニュートリエント、住化エンバイロメンタルサイエンス（株）、セパ・ジャパン（株）、大扇産業（株）、DSM（株）、デラバル（株）、東洋電化工業（株）、動物アレルギー検査（株）、日本農薬（株）、ビルバック、ファルミナペットフーズ・ジャパン（株）、ペーリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパン（株）
主要取引銀行	東邦銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 銀行、大東銀行、農林中央金庫
事業拠点	本社工場、小林工場、中国工場（天津・南京）、東京支社、中央研究所、臨床牧場、全国の物流センターおよび直販拠点、海外事業所（北京、ニューヨーク）
当社グループ	ゼノジェンファーマ株式会社、天津全薬動物保健品有限公司、日本バイオロジカルズ株式会社、中牧全薬（南京）動物薬品有限公司

経営指標 2022 年 4 月 1 日現在

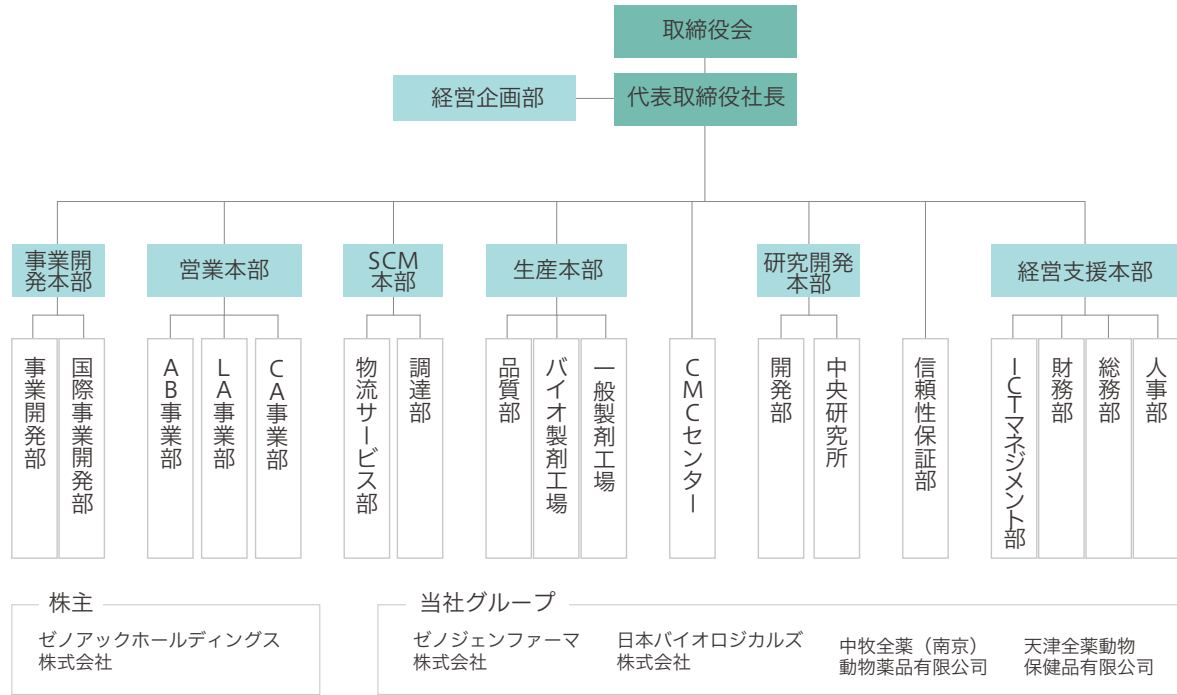
●売上高（億円）



●従業員数（人）



組織図 2022 年 4 月 1 日現在



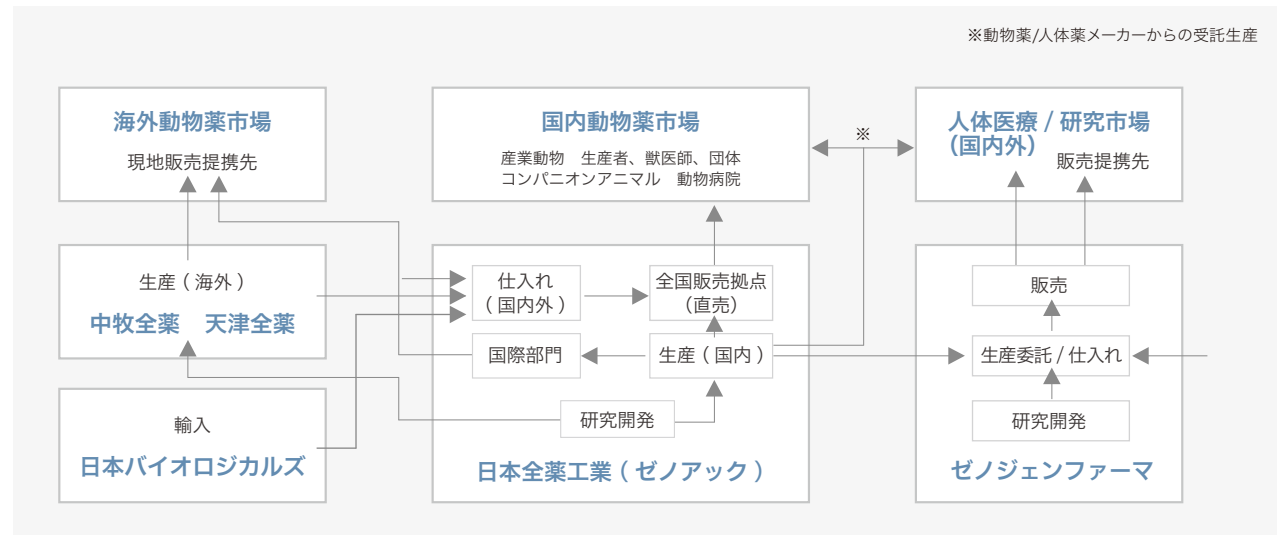
ゼノアックの事業

ゼノアックは動物用医薬品の専門企業として、研究開発から製造・仕入・輸出入・販売までを一貫して行っています。対象とする市場は、産業動物（牛・豚・鶏）とコンパ

ニオンアニマル（犬・猫）で、販売製品は動物用医薬品をはじめ医療器材、飼料添加物、混合飼料、ペットフード、シャンプー、サプリメントなどです。産業動物分野では獣

医師と生産者に直売していますが、コンパニオンアニマル分野では動物病院にのみ直売を行い、飼い主への販売はしていません。

グループ企業の天津全薬、中牧全薬、日本バイオロジカルズからは製品の供給を受けてこれを販売し、ゼノジェンファーマには細胞保存液の製品供給を行っています。



これまでの長期計画「2010プラン」「2020プラン」に続き、2021年度より新たに「ビジョン2030」を策定しました。

【ビジョン2030コンセプト】
 バイオと共に世界のZENOAQへ
 ～新たな創造への挑戦～

この10年の計画は、今後3年・3年・4年の中期計画に展開していきます。
 ビジョン2030で最重要と位置づけるのが、ゼノアックのバイオ医薬品でグローバルに価値を提供できるようにするこ

とです。バリューチェーン間の連携強化やビジネスパートナーとの協力を積極的に行うことで、事業化を更に加速させます。また、新規事業としてデジタルや情報を駆使した今までにない発想のビジネスモデルを探索していきます。

既存事業である国内・アジアの動物薬事業も深化させます。国内事業は培ってきた現場力の強化とあわせてICT技術を活用したさらなる価値提供と事業の収益性向上を狙います。アジア事業は戦略を根本的に見直し、更に発展できるビジネスモデルに転換していきます。

ゼノアックは、バイオ医薬品によって世界の動物の価値を高め、つながる全ての人々の幸福に貢献します。

ゼノアック credo

ゼノアックの社員は、経営理念の実現に向けて”自ら考え行動する”ことを目指します。ゼノアックは、心の拠り所となる全社員共通の価値観を「ゼノアック credo」としてまとめ、全社員に配布しています。社員は常に credo を携帯し、現場では読み合わせや教育、振り返りなどを行いながら、その浸透と実践に努めています。credo の作成に当たっては、credo の考え方に基づき、各部署の社員からなる組織を立ち上げ、社員自らの手で作り上げています。

2021年に発表された新経営理念体系策定時には、社長により選抜された社員が集められ、経営理念や基本原則実現のため、社員として大切にしてきたことやこれからの経営に必要とを感じることを意識し、credo を刷新しました。



▲2021年刷新されたゼノアック credo

製品情報

取り扱い製品は、自社製品、提携メーカー製品をあわせて400種類以上あります。その中から主要な製品について紹介します。

動物用医薬品

犬アトピー性皮膚炎の減感作療法薬



遺伝子組換えタンパク質製剤です。犬アトピー性皮膚炎の治療はこれまで困難を極めていましたが、アレルゲンを特定して原料に使用することで、症状の緩和に成功しました。人体薬を含めても、アレルゲンを特定した製品は世界初です。原料となる遺伝子組換えタンパクは、福島伝統産業であるカイコの生体を使って生産しています。

動物用医薬品

犬用の脾炎抗炎症剤



世界で初めて承認された犬用の脾炎抗炎症剤です。これまで脾炎を対象とした動物用医薬品は存在しませんでした。サイトカインなどの刺激による接着分子の活性化を阻害し、抗炎症活性を示します。犬の脾炎急性期における臨床症状を改善します。

動物用医薬品

輸液剤グループ



ゼノアックの輸液剤は国内市場シェアの大部分を占めています。糖電解質複合補液剤、汎用補液剤、栄養補液剤、その他特殊用途補液剤の4つのカテゴリー、計19種類からなり、目的や種類別に製品ラベルを色分けしています。

動物用医薬品

総合ミネラル固形塩



日本の畜産業を代表するロングセラー製品です。独自の固形化技術により、雨や唾液などによって溶けにくく、各種微量ミネラルを均一に混合して固形化しているため、牛が自由に舐食することで、過剰摂取を防ぎながらバランス良くミネラルを摂取できます。

動物用医薬品

ノミ・マダニ・フィラリアなどの寄生虫駆除・予防剤



フィラリア症予防、ノミ・マダニ駆除、消化管内寄生虫駆除が一剤で出来る"オールインワン"タイプの製剤です。嗜好性の高いソフトチュアブルです。

製造販売元：ペーリンガーインゲルハイムアニマルヘルス

犬猫用特別療法食



「高品質の原材料」と「嗜好性」にこだわった自然療法食で、動物病院から処方されます。動物は私たちの家族であるという思いのもと、「自然」を軸に、フェデリコ2世・ナポリ国立大学の動物栄養学部との連携と長期間の科学研究を通して完成しました。

輸入元：ファルミナペットフーズ・ジャパン株式会社

製品情報

動物用医薬品

乳房炎用乳房注入剤グループ



泌乳期用と乾乳期用をラインナップしています。ゼノアックの独自技術により、拡散性の向上・使用禁止期間の短縮を実現した製品もあります。乳房注入剤もゼノアックは高いシェアを示しています。

動物用医薬品

日本初の鶏用ベクターワクチン



日本初の鶏用ベクターワクチンで、既に世界75カ国以上で使用実績があります。その技術により、従来のワクチンのような、移行抗体の影響を受けやすい、鶏群の免疫レベルがバラつく、飲水投与が煩雑、などの課題を改善するとともに、孵化場で接種できるため農場でのワクチンの接種が不要です。人手不足の時代に適応した製品です。

製造販売業者(輸入元)：
ペーリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパン株式会社

豚精液希釈保存用製品



BSA（牛血清アルブミン）を含まない、動物由来原料の規制をクリアした豚精液希釈保存用製品です。

飼料

子牛関連製品



子牛の健康と成長をサポートする製品群として、生後間もないステージから離乳前後まで幅広くラインナップしています。

動物用医薬品

鶏用生ワクチン



点眼接種のため、注射のストレスがなく、鶏に優しいワクチンです。それぞれ、MS感染に伴う呼吸器疾病（気嚢炎）の発症予防又は軽減、MG感染に伴う産卵率低下の軽減を目的とします。

製造販売元：日本バイオロジカルズ株式会社

細胞凍結保存液



国内外の研究者が使用するロングセラーの細胞凍結保存液です。2015年には、GMPに準拠した細胞凍結保存液を日本で初めて発売しました。再生医療分野からの需要を受け、ES細胞・iPS細胞に関わる研究所などで利用されています。試薬の調製を必要とせず、ディープフリーザーで急速に凍結できるため手軽に使用できます。DNA、RNAを損傷せず、融解後の細胞生存率（5～10年）も90％以上です。

編集方針

発行／2022年6月

- このレポートについて「ZENOAQ CSR REPORT 2022」は、日本全業工業株式会社（以下ゼノアック）のCSR（企業の社会的責任）活動の概要をステークホルダーの皆様にご報告するために発行しています。（本編はCSRの国際規格であるISO26000の中核主題に準じた章構成としています。）
 - 報告期間主に2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の活動を記載していますが、この期間を含む継続的な取り組み等についても取り上げています。
 - 報告範囲ゼノアックグループは共通の価値観と経営理念で活動していますが、本レポートの報告内容は、一部を除き日本全業工業（株）の取り組みだけを記載しています。
- ※ 2020年度、2021年度に撮影したマスクなしの写真は撮影の数分間のみマスクを外し、会話なしで撮影をしたものです。